

令和3年度

成田山文化財団年報

第13号

成田山仏教図書館
成田山靈光館
成田山書道美術館

目次

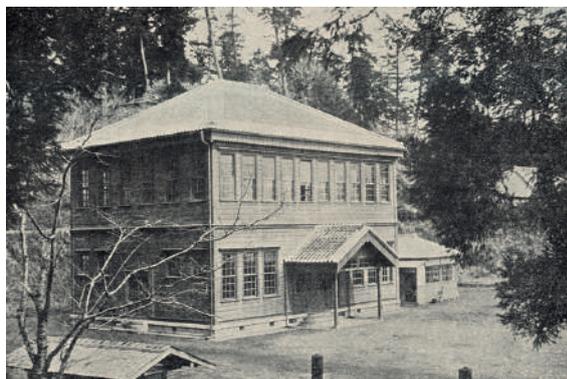
成田山仏教図書館	1
概要	
令和3年度事業報告	
令和4年度事業予定	
寄贈図書	
成田山霊光館	8
概要	
令和3年度の活動	
収蔵資料・利用状況	
博物館実習・寄贈図書	
令和4年度の展示予定	
研究報告	
名所絵の虚実	
— 二代歌川広重「諸国名所百景 下総成田山境内」—	
	猪岡萌菜
明治期の成田山境内図について	矢嶋毅之
成田山に奉納された算額の解法の比較	
	千葉県立長生高等学校理数科
	勝山凱文 成川葵 堀江若菜
成田山書道美術館	22
概要	
令和3年度事業報告	
展示事業・展示要旨・入館者数・普及事業	
収蔵資料・寄贈作品資料・貸出作品・寄贈図書	
令和4年度事業予定	
寄付金のお願い	34
案内図・利用案内	35

成田山仏教図書館

概要

当館は、成田山中興第15世貫首石川照勤僧正により、明治34年（1901）1月、時の文部大臣松田正八氏へ設置の届け出を済ませ「私立成田図書館」として設立、翌35年2月11日に開館された。

初代館長であった石川照勤は、設立開申書の中で「私儀コノ度公衆ノ閲覧ニ供センガ為メ内外ノ図書ヲ蒐集シ私立成田図書館ヲ設置仕候条此段及開申候也」と記し、この設立の精神は、「成田山の宗教的使命達成と、地方文化向上のため」「我が国の精神文化の向上のため」である、としている。



①旧成田図書館

時代と共に老朽化・狭隘化した本館は、昭和59年10月に「市立成田図書館」が開館されたことにより、その任を譲り、昭和63年の全面改築を機に「成田山仏教図書館」と館名を変更し、蔵書の特異性に鑑み専門図書館として運営されることとなり、今日に至っている。



②成田山仏教図書館

蔵書の公開

図書館のホームページより、全蔵書（雑誌・研究紀要論文・雑誌論文を含む）を検索可能とし、タイトル数にして約80万件のデータベースとなっている。

ホームページURL <http://naritasanlib.jp/>

令和3年度事業報告

1. 職員

兼任2名（館長、総務課長）
常駐2名（司書1名、事務職員1名）

2. 利用状況

来館総数	2,632人
（一般／1,895人・学生／737人）	
開館日数	292日
一日平均	10人
蔵書利用冊数	4,799冊
ホームページ利用者数	136,400人
蔵書検索アクセス総数	1,929,877件

3. 資料購入

図書	48種
新聞・雑誌（年間購読）	79誌

4. 現在蔵書数

3月末現在	335,064冊
	（除雑誌）
前年度比	375冊増

主な事業

1. ウェブ公開データ随時修正更新作業
2. 図書購入

仏教書を中心とする書籍、全集などの継続図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充分を主に購入。

3. 資料保存

破損本の再製本、雑誌の合本製本、和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

4. 蔵書配架整備

配架スペースに入りきれなくなった図書の配架移動調整。

令和4年度事業予定

1. 職員

兼任2名(館長, 総務課長)
常駐2名(司書1名, 事務職員1名)

2. 開館日

火・土の2日間を通常開館、水・木・金・日を予約閲覧日とする。
自習等の閲覧室利用は、予約閲覧日も利用可。

3. 昭火文庫、整理作業

大本山成田山新勝寺中興第二十一世貫首大僧正橋本照稔大和尚蔵書を「昭火文庫」として整理。

4. ウェブ公開データ随時修正更新作業

5. 図書購入

仏教書を中心とする書籍、全集などの継続図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充分を主に購入。

6. 資料保存

破損本の修復、再製本、雑誌の合本製本、和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

寄贈図書・資料

次の方々より、貴重な図書・資料をご寄贈頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。

令和3年4月～令和4年3月
(団体機関・個人 順不動)

資料名・巻号

寄贈者

STUDIA PHILOLOGICA BUDDHICA
MONOGRAPH SERIES 38

THE INTERNATIONAL INSTITUTE
FOR BUDDHIST STUDIES
LRG ライブラリーリソースガイド 23

アカデミック・リソース・ガイド株式会社
大原幽学記念館報告 7 旭市教育委員会
誇れる国、日本-謀略に! 翻弄された近現代- 14
アパグループ
我孫子の文化四十年の歩み- 嘉納治五郎銅像建立記念特集- 我孫子の文化を守る会

喫煙社員ゼロの時代へ

荒島英明氏

町が生まれ森が広がる 岡田卓也のものがたり

イオン環境財団

イオン環境財団 30年の歩み 1990-2020

同上

池上 57-4~58-3

池上本門寺

大和の冒険-今昔物語集外伝- 石井とし子氏

市立市川歴史博物館館報 令和元年度

市川歴史博物館

葛飾八幡宮と八幡の藪知らず

同上

第一回 更級日記千年紀文学賞 受賞作品集

市原市教育委員会ふるさと文化課

太宰治と船橋

市原善衛氏

伊能忠敬記念館年報 22

伊能忠敬記念館

伊能忠敬研究(「伊能図探求」継承 季刊「史料と伊能図」) 94~96

伊能忠敬研究会

図書 868~879

岩波書店

印西市史 資料編 近現代 1

印西市教育委員会

印度学宗教学会論集 47

印度学宗教学会

ほんとうに大切なこと 今日を生きる100の言葉

内田玲子氏

傘松 931~942

永平寺

円覚, 円覚寺派宗務録事 334~337

円覚寺派宗務本所

有職故実の世界 別冊太陽 日本のこころ287

大木素十氏

大倉山論集 67

大倉精神文化研究所

大谷大学研究年報 73

大谷学会

大谷学報 100-1,100-2

同上

歌舞伎を読む-武の巻 源平合戦- 大矢芳弘氏

三井寺 194~197

園城寺

川崎大師教学研究 紀要 5

川崎大師教学研究

ハーバード×スタンフォードの眼科医が教える

放っておくと怖い目の症状25

梶原一人氏

語り出したらキリがない! 桐のまち春日部(令和3年度夏季展示)

春日部市郷土資料館

包装のひみつ-考えよう、地球のこと、包装の文化

と未来-(学研まんがでよくわかるシリーズ 174)

学研プラス

ビタミン剤のひみつ【増補改訂版】(学研まんが

でよくわかるシリーズ 175)

同上

免疫のひみつ(学研まんがでよくわかるシ

リーズ 176)

同上

- 学研まなび絵本シリーズ ナナちゃんとせんい
んさん 同上
- 大豆ミートのひみつ (学研まんがでよくわかる
シリーズ 177) 同上
- 日本郵政のひみつ-郵便のはじめて- (学研ま
んがでよくわかるシリーズ 日本ではじめて編)
同上
- こんぶのひみつ (学研まんがでよくわかるシ
リーズ 179) 同上
- ほたてのひみつ (学研まんがでよくわかるシ
リーズ 178) 同上
- 秋さけのひみつ (学研まんがでよくわかるシ
リーズ 180) 同上
- 平小次郎将門の伝記と逸話 令和の新将門記
勝又清和氏
- 浄土宗七祖聖岡と関東浄土教-常福寺の名宝を
中心に- 神奈川県立金沢文庫
- 聖徳太子一四〇〇年遠忌特別展 聖徳太子信仰-
鎌倉仏教の基層と尾道浄土寺の名宝- 同上
- 古文書を学ぶ-市川海老蔵の証文から- 歴史
民俗資料入門 1
- 神奈川大学日本常民文化研究所
- 民具マンスリー 54-1~54-12 同上
- 神奈川大学日本常民文化研究所要覧 2021~
2023年度 同上
- 神奈川近代文学館 152~155
神奈川文学振興会
- 神奈川近代文学館年報 R2年度 同上
- 金沢文庫研究 347 神奈川県立金沢文庫
- 鎌ヶ谷市郷土資料館令和3年度企画展
- KAMAGAYA 1971 鎌ヶ谷市郷土資料館
- 神の光 1129~1138 神の光社
- 川崎大師だより 721~732 川崎大師平間寺
- お大師さまとともに 50 同上
- 関東職業能力開発大学校附属 千葉職業能力開
発短期大学校紀要 24
- 関東職業能力開発大学校附属
千葉職業能力開発短期大学校
- 汲古 80 汲古書院
- 九州龍谷短期大学紀要 68 九州龍谷短期大学
- 京都女子大学宗教・文化研究所 研究紀要 34,35
京都女子大学宗教文化研究所
- 清水 222~224 清水寺
- 生命之光 818~828 キリスト聖書塾
- 金峯山時報 652~663 金峯山時報社
- 修験道 102~104 金峯山修験本宗宗務庁
- 抜萃のつづり 81 熊平製作所
- くらま 94-4~95-3 鞍馬弘教総本山鞍馬寺
- 消えぬ灯-信楽香雲初代管長五十年祭- 同上
- 仏教通論 附録・現代語「仏教通論」第一篇第一章
栗山明高氏
- “ちばの魅力”を世界にアピール!日本百選OF
ちば 30~36 京葉銀行
- ちばで見る電車&飛行機 1,2 同上
- 原人 74-3~74-5 原人社
- 公益財団法人 興風会 九十年史
公益財団法人 興風会
- 仏教のことは・考え方 佼成出版社
- 一遍を生きる 同上
- 興福寺仏教文化講座要旨 454 興福寺教学部
- 神戸親和女子大学研究論叢 55
神戸親和女子大学
- 高野山 13~24 高野山真言宗
- 海洋交易路における仏教流伝形態の研究 (平成
29年度から31年度科学研究費助成金 研究成果
報告書) 高野山大学文学部
- 高野山大学密教文化研究所紀要 34,別冊
高野山大学密教文化研究所
- MUNDI 91 国際協力機構
- JICA MAGAZINE 1~5 同上
- 日本現存八種一切経対照目録 (改訂版)
国際仏教学大学院大学附置日本古写経研究所
- 日本古写経研究所研究紀要 6 同上
- 仙石山仏教学論集 12 国際仏教学大学院大学
- 国際仏教学大学院大学研究紀要 25 同上
- BULLETIN OF THE INTERNATIONAL
INSTITUTE FOR BUDDHIST STUDIES 3
- 国際仏教学大学院大学附置国際仏教学研究所
- 国立国会図書館七十年記念館史 デジタル時代
の国立国会図書館 国立国会図書館
- 国立国会図書館月報 721・722~731 同上
- 富嶽 FUGAKU 213~218 心の文化研究所
- コロナ禍の羅針盤-医療現場からの情報提供と
アドバイス- NPO法人子象の会
- 国家学会雑誌 134-3・4~134-11・12
国家学会
- 日本文化研究 14
駒沢女子大学日本文化研究所
- 駒沢大学禅研究所年報 33
駒沢大学禅研究所

- 駒沢大学仏教学部研究紀要 79,80
駒沢大学仏教学部
- 駒沢大学仏教学部論集 52 同上
虚空(合本版) 51~60,61,62 小宮壺雄氏
わかば 876~887 金光教青少年少女会連合本部
月刊 嵯峨 1074~1085
- 嵯峨御所大覚寺嵯峨御流華道総司所
図書館報 光丘 159,160 酒田市立中央図書館
佐倉市史研究 34 佐倉市
村会雑俎 2(佐倉市史料叢書) 佐倉市
風媒花 34 佐倉市教育委員会
近世佐原伊能家の記録「伝家」- 忠敬前後の家
と地域の諸相- 佐原古文書学習会
三康文化研究所年報 52 三康文化研究所
三康文化研究所所報 56 同上
珊 129 珊の会
国指定天然記念物「成東・東金食中植物群落」
指定百年記念誌
- 山武市教育委員会・東金市教育委員会
ゴールデンパス- 絶体絶命の中に開かれる奇跡の道-
三宝出版
遊行 216~219 時宗総本山宗務所
四天王寺 802~807 四天王寺
斯道文庫論集 56 斯道文庫
芝山町の歴史と文化財 芝山町教育委員会
芝山町埋蔵文化財調査報告書 8,9 同上
鍛冶屋台遺跡土具来土遺跡(1033-1地点)(芝
山町埋蔵文化財調査報告書 10) 同上
FISHING CAFÉ 68,69 シマノ釣具事業部
人類の共生と平和の尊びを求めて- 寛容に生き
るスリランカの思想- 釈悟震氏
淑徳大学研究紀要(総合福祉学部・コミュニ
ティ政策学部) 55 淑徳大学
浄土宗関東十八檀林 大念寺日鑑 5
淑徳大学アーカイブス
長谷川良信教育学と淑徳大学
淑徳大学 長谷川仏教文化研究所
日蓮仏教研究 12 常円寺日蓮仏教研究所
本山修験 218~220 聖護院門跡
相撲浮世絵 房総の力士そろい踏み
城西国際大学水田美術館
浄土宗新聞 650~661 浄土宗
深草教学 32 浄土宗西山深草派宗務所
教化研究 32 浄土宗総合研究所
昭和学院短期大学紀要 58 昭和学院短期大学
- 白井市郷土資料館年報 18 白井市郷土資料館
御室派宗報 251~253 真言宗御室派宗務所
真言宗善通寺派 宗報 135~137
真言宗善通寺派宗務庁
宗報 847~858 真言宗智山派宗務庁
生きる力 SINGON 105~108 同上
同朋新聞 761~773 真宗大谷派宗務所
真宗 1405~1417 同上
新宗教新聞 1129~1134 新宗教新聞社
真宗文化- 真宗文化研究所年報- 29,30
真宗文化研究所
新千葉タイムス 325~337 新千葉タイムス
神変 1272~1277 神変社
隣人 34 菅井憲一氏
細川家史料 4~12(大日本近世史料)
菅原憲二氏
井伊家史料 4~14,25(大日本維新史料 類纂
之部) 同上
大阪府南王子村文書・奥田家文書 総目次・索
引 同上
奥田家文書 1~9,11~13,15 同上
和歌の浦 不老橋 同上
牧民金鑑 上, 下 同上
南紀徳川史 1~17 総目録 同上
播陽万宝智恵袋 同上
大日本租税志 1~3,別冊 同上
THE GOAL IS YOUR SMILE- 子ども
たちの笑顔と歩んだ10年間の記録-
スポーツこころのプロジェクト
超音波マッサージで近視・老眼はズバリなおせ
る 青娥書房
月刊 ひかり 734~745 西山浄土宗
様々な悩みを”親愛信託”で解決!! 信託活用
Q&A 清文社
平和のための宗教- 対話と協力- 13
世界宗教者平和会議日本委員会
WCRP[WORLD CONFERENCE ON
RELIGION AND PEACE] 497~508 同上
全国珠算新聞 647~652 全国珠算教育連盟
浅草寺日記 41 補遺編 1 金龍山浅草寺
浅草寺 689~698 浅草寺教化部
浅草寺仏教文化講座 65 同上
へんじょう 50 善通寺
勸学院叢書 2 特集: 即身成仏
善通寺勸学院

全仏 651,652 全日本仏教会
 曹洞宗研究員 研究紀要 51 曹洞宗宗務庁
 るりの光 238~240 総本山一畑寺
 名勝智積院庭園保存修理事業報告書
 総本山智積院
 豊山長谷寺拾遺 6之2 総本山長谷寺
 仁和 97~99 総本山仁和寺
 袖ヶ浦市史研究 20 袖ヶ浦市郷土博物館
 上総堀りの技術-竹と木と鉄が生んだ水- 同上
 コミュニティ 166,167 第一生命財団
 ポスチャー[POSTURE] 48 同上
 大正大学総合仏教研究所年報 43
 大正大学総合仏教研究所
 かがみ 51 大東急記念文庫
 跳龍 73-4~74-3 大本山総持寺出版部
 六代目三遊亭円楽 瑩山禅師の足跡を訪ねる DVD
 大本山総持寺大遠忌局
 宗報大覚寺々報 大覚寺 768~779
 大本山大覚寺
 はなびら 111~114 同上
 大雄 162~165 大雄山最乗寺
 高尾山報 687~698 高尾山薬王院
 八街の開祖 西村郡司翁伝-千葉県の農業基盤
 を確立- 高橋誠一氏
 令和2年度企画展 武士たちの明治
 館山市立博物館
 玉藻 1081~1093 玉藻社
 智山学報 改70 [通84] 智山勸学会
 智青 232~235 智山青年連合会
 史料で学ぶ千葉市の今むかし
 千葉市立郷土博物館
 ひまわり倶楽部 R3.6,R3.12
 ちばぎん総合研究所
 千葉県統計年鑑 R2年版 千葉県企画部統計課
 指標で知る千葉県-千葉県統計指標- 2021
 同上
 千葉県勢要覧 R2年版 同上
 千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告 36~41
 千葉県教育委員会
 千葉県内縄文時代集落・貝塚詳細分布調査報告
 書 同上
 千葉県がんサポートブック 第4版-地域の療
 養情報- 千葉県
 芸文協ちば 91・92
 千葉県芸術文化団体協議会
 らいぶらりあん-千葉県公共図書館協会誌- 62,63
 千葉県公共図書館協会
 千葉県の図書館 2021 同上
 伊能忠敬を知るための本 2003~2020
 千葉県公共図書館協会参考郷土等研修委員会
 千葉県詩集 54 千葉県詩人クラブ
 広報 ねこな 41 千葉県根木名川土地改良区
 企画展 房総の廃藩置県-千葉県誕生までの移
 り変わり- 千葉県文書館
 令和3年度企画展 関宿関所は川関所! ?
 千葉県立関宿城博物館
 千葉文化 253 千葉県立中央図書館
 千葉県立中央博物館研究報告 15-2
 千葉県立中央博物館
 房総半島の海洋生物誌 2 (千葉県立中央博物
 館研究報告 特別号11) 同上
 みる かたる つくる[千葉県立美術館報] 通110
 千葉県立美術館
 山本大貴-Dignity of Realism- 同上
 漆黒のモダン 漆芸家 佐治賢使展 同上
 体験のしおり 千葉県立房総の村 R4年度
 千葉県立房総のむら
 千葉県立松戸向陽高等学校 創立10周年記念誌
 千葉県立松戸向陽高等学校
 しあわせ 529,530,号外10月号
 千葉県労働者福祉協議会
 百の歴史を千の未来へ 千葉市制100周年記念漫画
 千葉市
 千葉いまむかし 34 千葉市教育委員会
 採蓮 (千葉市美術館研究紀要) 22,23
 千葉市美術館
 千葉市立郷土博物館 研究紀要 27
 千葉市立郷土博物館
 高度成長期の千葉-子どもたちが見たまちちく
 らしの変貌- 同上
 チベット文化研究会報 173~175
 チベット文化研究所
 茶屋四郎次郎記念学術学会誌 11
 茶屋四郎次郎記念学術学会
 CANDANA 52-1~52-4
 中央学術研究所
 中央学術研究所紀要 50 同上
 千葉県銚子市 余山貝塚確認調査報告書
 銚子市教育委員会
 生きがい研究 HEALTHY & ACTIVE

AGING 27 長寿社会開発センター
 哲学・思想論集 46
 筑波大学大学院人文社会科学研究所
 哲学・思想専攻
 天台学報 63 天台学会
 転法輪 183~186 転法輪寺
 東京学館高等学校研究紀要 13,16,19
 東京学館高等学校
 東京大学史料編纂所研究紀要 30
 東京大学史料編纂所
 東京大学史料編纂所報 55,56 同上
 東京大学史料編纂所研究紀要 31 同上
 東洋学研究情報センター叢刊 33
 東京大学東洋文化研究所附属
 東洋学研究情報センター
 仏教文化 609 東京大学仏教青年会
 仏教文化研究論集 21・22 同上
 東大寺ミュージアムの10年 東大寺
 東北大学文学研究科研究年報 70
 東北大学大学院文学研究科
 東洋学研究情報センター叢刊 32
 東洋学研究情報センター
 井上円了センター年報 30
 東洋大学井上円了哲学センター
 チャレンジャー井上円了-自分の運命は自分で拓け-
 同上
 東アジア仏教学術論集-韓・中・日国際仏教学
 術大会論文集- 9 東洋大学国際哲学研究所
 国際哲学研究 11,別冊15,16
 東洋大学国際哲学研究センター
 国際禅研究 6~8
 東洋大学東洋学研究所国際禅研究プロジェクト
 文学論藻 96 東洋大学文学部日本文学文化学科
 公益財団法人 東洋文庫年報 2019 東洋文庫
 東洋文庫書報 52 同上
 読書推進運動 641~650 読書推進運動協議会
 図書館車の窓 120~122
 「図書館車の窓」編集室
 わかりやすい土地読本 土地情報センター
 利根川文化研究 43,44 利根川文化研究会
 文化財が紡ぐ佐倉の歴史-宝金剛寺と北条氏勝-
 外山信司氏
 仏教社会事業の研究 2-高石史人先生追悼論集-
 中西直樹氏
 めぐみ 150~152 中山身語正宗文化部

創設百三十五周年記念事業 成田学園 新園舎完成
 成田学園
 成田山だより 智光 R3.4~R4.3
 成田山新勝寺
 成田山新勝寺中興二十一世貫首 大僧正 橋本
 照稔大和尚本葬儀 同上
 大本山成田山新勝寺中興二十一世貫首 大僧正
 橋本照稔大和尚本葬儀次第 同上
 大本山成田山新勝寺中興二十一世貫首橋本照稔
 大和尚追悼御遺作集「飲水思源」 同上
 立正大学人文科学研究年報 58
 立正大学人文科学研究所
 東北宗教学 16
 東北大学大学院文学研究科宗教学研究室
 橋本大僧正を偲ぶ 成田山新勝寺
 大本山成田山新勝寺法類系譜 同上
 名古屋成田山 802~811 成田山大聖寺
 白毫 49 成田山仏教青年会
 成田山文化財団年報 12 成田山文化財団
 成田市統計書 R3年版 成田市
 成田市の文化財 52 成田市教育委員会
 令和元年度 成田市内遺跡発掘調査報告書 同上
 成田市史研究 44,45 同上
 成田商工会議所だより 135~137
 成田市商工会議所
 成田史談 66 成田市文化財保護協会
 広報なりた 1432~1455 成田市役所
 西尾市岩瀬文庫企画展 塩 西尾市岩瀬文庫
 西尾市岩瀬文庫企画展 ものがたりの系譜 同上
 岩瀬文庫特別展 江戸時代の西尾 同上
 日本漢文学研究 16
 二松学舎大学東アジア学術総合研究所
 雙松通説(SOSHOTSUJIN) 27 同上
 日蓮教学研究所紀要 47 日蓮教学研究所
 日展ニュース 178~180 日展
 日本学士院紀要 75-3,76-1,2 日本学士院
 弘道 1131~1136 日本弘道会
 歴史と民俗 38 日本常民文化研究所
 インスタントラーメン図鑑 この一冊でラーメ
 ンのすべてがわかる! 日本即席食品工業協会
 PATIPADA(パティパダー) 28-1~28-12
 日本テラワダ仏教協会
 ブッダが解き明かす十二因縁のメカニズム
 同上
 生きる勉強-軽くして生きるため、上座仏教長

老と精神科医が語り合うー	同上	無上道 868~879	法華宗宗務院
涅槃について	同上	榎 44	榎の会
「生命」のシステムを破って解脱をめざす	同上	図書館員としての高津親義	松田典之氏
季刊 iichiko QUARTERLY		松戸市立博物館紀要 28	松戸市立博物館
INTERCULTURAL 150~153		松戸市立博物館年報 28	同上
日本バリエールアートセンター		ものみの塔ーエホバの王国を告げ知らせるー	
ここまで使える！自己信託&一般社団法人を活用した資産承継・事業承継	日本法令	通141-6,通141-11,通142-1	松本阿佐子氏
密教学研究 53	日本密教学会	目ざめよ！ 101-1~3	同上
月刊 人間 593~603	人間社	妙音 759~770,特別号	妙音新聞社
念法時報 1995~2021	念法時報社	花園 71-4~72-3	妙心寺派宗務本所
鷲乃声 96-5~96-11	念法真教	正法輪 71-4~72-2・3	同上
野田市史研究 31	野田市	ミルククラブ 130~134	ミルククラブ
野田市郷土博物館・市民会館 年報・紀要 14		東洋文化 115,116	無窮会
野田市郷土博物館・市民会館		終戦75周年記念誌 あゆみ	茂原市遺族会
大乘淑徳学園 長谷川仏教文化研究所研究年報 45		「あゆみ」感想文特集-61名より-	同上
長谷川仏教文化研究所		薬師寺 1~3,5,7,9,10,11,20,26,208~211	薬師寺
条件反射論による近現代史解析	林英一氏	ひぐらし日記	矢嶋毅之氏
「天皇の宣言」の政治利用	同上	宇宙 177~180	山岡記念文化財団
国民生活を劣化させたのは誰だー偏向された		三井寺に眠るフェノロサとビゲロウの物語	
「学習指導要領」ー	同上		山口静一氏
未来に生きる・舞	原哲夫氏	無盡燈 442~453	大和山出版社
津波はこのように旭の海岸に押し寄せてきました	春川光男氏	稲 通4~7,9	槍田良枝氏
文明開化に抵抗した男 佐田介石 1818~1882		立正大学 仏教学論集 35	
春名徹氏		立正大学大学院仏教学研究会	
比叡山時報 794~805	比叡山時報社	吉田格コレクション 城ノ台北貝塚・子母口貝塚考古資料(館蔵資料「基礎文献」叢刊 第9輯)	立正大学博物館
白光 68-4~69-3	白光真宏会	立正の考古学	同上
伊能忠敬の地図作製 伊能図・シーボルト日本図を検証する	平井松午氏	立正大学博物館年報 19	同上
豊山教学大会紀要 49	豊山教学振興会	立正大学博物館 館報 万吉だより 32	同上
常照[仏教大学図書館報] 68		大崎学報 176	立正大学仏教学会
仏教大学付属図書館		立正大学文学部研究紀要 37	立正大学文学部
仏教大学法然仏教学研究センター紀要 8		立正大学文学部論叢 144	同上
仏教大学法然仏教学研究センター		月刊 リベラル・タイム (LIBERAL TIME)	
仏教文化学会紀要 30	仏教文化学会	21-5~22-4	リベラルタイム出版社
宗教年鑑 R3年版	文化庁	龍谷史壇 151・152,附録,153	龍谷大学史学会
宗務時報 125	文化庁宗務課	日本と東南アジアの仏教交流ーその史実と展望ー	
文春まんが読みとくシリーズ 8	アイスクリーム	龍谷大学世界文化研究センター事業部	
クリームここが知りたい！	文芸春秋企画出版部	仏教史研究 59,60	龍谷大学仏教史研究会
法学協会雑誌 138-3~139-2	法学協会	和光 236	臨濟宗建長寺派宗務本院
法談 67	法談会	あした21 864~876	霊友会
浄土 87-3~88-2	法然上人鑽仰会	明法 804~815	同上
浅草寺 693	浅草寺教化部	歴史研究 63-4~64-2	歴研
聖徳 246,247	法隆寺教学部		

成田山靈光館



1. 概要

当館は、昭和22年（1947）5月3日に財団法人成田山文化財団の運営のもと、成田山の宗教的使命達成と地方文化の向上を目的として創立された歴史博物館である。その前身は、昭和3年6月に社会教育機関として創設された成田山新更会で、戦後まもなく組織ならびに建物等を改組して設立された。昭和46年7月には県内5番目となる登録博物館の指定を受けた。

現在の建物は昭和58年7月に新築されたもので、その翌年建立された平和大塔1階の靈光殿も共通施設として使用されたが、平成16年（2004）3月には展示施設は本館だけとなった。そして同21年4月からは、靈光殿および成田山書道美術館2階特別展示室で企画展を開催している。職員は下記の通りである。

館長 田中 照広（兼任）
総務係長 矢嶋 毅之
学芸員 猪岡 萌菜

2. 令和3年度の活動

〔展示〕

靈光殿では常設展示「成田山の歴史」をおこなっている。展示は成田山の創建から江戸時代までを対象に、成田山の創建・成田山の興隆・成田山の開帳・成田山と市川團十郎・成田詣とし、資料や写真パネルを通じて紹介している。以下、靈光殿で開催した企画展の概略を記す。

【靈光殿】

高僧の書跡 3/27 - 5/23

明治から大正にかけて当山を支えた原口照輪・三池照鳳・石川照勤の三師の書跡を紹介した。

荒木照定上人と成田山 5/29 - 7/19

戦中・戦後において成田山の住職をつとめ、開基一千年祭や大本堂建立という大事業に臨んだ照定上人の足跡を紹介した。

収藏品展—絵双六一 7/24 - 9/5

日本の室内遊具として親しまれていた双六一を紹介した。



八代目市川團十郎展 9/11 - 10/24

八代目市川團十郎にまつわる錦絵や自筆資料を紹介した。

靈光館所蔵品展 10/30 - 12/19

普段公開機会の少ない資料、新収蔵資料を中心に紹介。



深川不動尊 1/1 - 2/20

深川のお不動様として親しまれている深川不動尊の歴史を紹介。

3. 収蔵資料

令和3年度において寄贈または購入により受け入れた資料は79点。主な資料は以下の通り。

〔購入〕

・歴史資料「成田山列車時刻表」（昭和期）

・歴史資料「七代目市川團十郎扇面」

（江戸期・七代目市川團十郎筆）

- ・歴史資料「幟旗」 (昭和2年)
- ・歴史資料「成田線120周年記念グッズ」 (令和3年)
- ・歴史資料「従鹿島香取至成田山 道中諸事記」 (明治20年)
- ・歴史資料「私立成田幼稚園落成式記念」 (明治39年・絵葉書)
- ・歴史資料「成田参詣の栞」 (明治期)
- ・歴史資料「下総成田山七五三飾」 (大正期・絵葉書)
- ・美術資料「櫓太鼓成田仇討」 (明治18年・豊原国周画)
- ・美術資料「深川新地松葉屋内粧ひ にほひとめき」 (文化文政期・鳥居清峯画)
- ・美術資料「成田利生記桂川力蔵 難対組上三枚つゞき」 (大正4年・綱島亀吉画)
- ・美術資料「八代目市川團十郎死絵」 (嘉永7年)
- ・美術資料「擬九星市川系譜」 (明治27年・落合芳幾画)
- ・美術資料「橋供養梵字文覚」 (明治16年・揚洲周延画)

4. 利用状況

[調査など]

- ・長生高校金光康佑氏ほか、算額見学のため来館 (6/5)
- ・國學院大學上代瑞聖氏、史料閲覧のため来館 (11/11)
- ・井上円了哲学センター長谷川琢哉氏、石川照勤について問い合わせのため来館 (11/24)
- ・佐倉市川口恭一氏ほか6名、信集講関係史料閲覧のため来館 (11/30、12/16)
- ・NHK大阪拠点放送局門田収平氏、成田鉄道について調査のため来館 (12/16)

[貸出・提供]

- ・成田市三里塚御料牧場記念館の展示へ、パンフレット「三里塚」「成田鉄道沿線各所案内」を貸与 (貸出期間：令和3年4/1 - 令和4年3/31)
- ・西北出版株式会社制作の大学入試過去問題集 (大学HP掲載) に「火消千組の図」(歌川国芳画)の使用を許可 (4/19)
- ・(仮称)市原歴史博物館常設展示パネルに「姉崎二子塚古墳出土櫛描紋埴輪」の画像使用を

許可 (4/23)

- ・テレビ東京『所さんのそこんトコロ!』(7/30)放送に「好同行初春成田詣の図」(二代国貞画)の画像使用を許可。
- ・交通新聞社『月刊散歩の達人』9月号(8/20刊行)に絵葉書「(宗吾名勝)電車停留所」の掲載を許可 (8/4)
- ・酒々井町広報誌「広報ニューしすい」10月号(10/1刊行)に「千葉県成田道商店高名家独案内」の掲載を許可 (9/17)
- ・令和2年度国史跡本佐倉城跡講演会記録集『戦国の城のライフサイクルー本佐倉城築城から廃城、そして現代へー』(令和4年2月刊行)に古河公方足利義氏「御城内御掟之事」の画像掲載を許可 (10/8)
- ・千葉市立郷土博物館パネル展「千葉常胤と13人の御家人たち」(令和4年1/26 - 3/6)に「千葉常胤肖像画」の画像使用を許可 (12/9)
- ・山川出版社『日本の伝統文化4 相撲』(令和4年3月刊行)に「火消千組の図」(歌川国芳筆)の画像掲載を許可 (12/10)
- ・千葉市発行、千葉市歴史読本『史料で学ぶ千葉市の今むかし』に「千葉常胤肖像画」の画像掲載を許可 (1/18)
- ・山本順子氏私家版『変遷「下総御料牧場と県営鉄道(軽便)多古・八街線」昭和に消えた二つの歴史』(令和4年出版予定)に「成田鉄道三里塚名所案内図」、パンフレット「三里塚」の画像掲載を許可 (1/23)
- ・千葉市広報誌「千葉市政だより」(令和4年2/18刊行)に「千葉常胤肖像画」の画像掲載を許可 (1/27)
- ・千葉県立長生高校「令和3年度指定スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告書第1年次」(令和4年3月発行)に「関流皆伝都築利治の算額」の画像掲載を許可 (2/4)

5. 博物館実習

9月8日から15日まで博物館実習を実施した。受け入れた学生の内訳は以下の通りである。

川村学園女子大学 2名

6. 寄贈図書 (令和3年4月～令和4年3月)

博物館だより 169～172 岩手県立博物館

年報 48	仙台市博物館	令和2年度君津市内遺跡発掘調査報告書	
史の杜 11 東北大学東北アジア研究センター			君津市教育委員会
年報 令和2年度	東北歴史博物館	外箕輪遺跡 XI	同上
機織り作品展示会 図録		資料館だより 52	君津市立久留里城址資料館
稲敷市歴史民俗資料館館報 15号	同上	フードカルチャー 32	
江戸崎家文書	同上	キッコーマン国際食文化研究センター	
稲敷市古文書目録 第1集	同上	海の帝国 琉球 図録	国立歴史民俗博物館
年報 27	上高津貝塚ふるさと歴史の広場	鯨絵のイマジネーション 図録	同上
目で見ると取手の歩み	取手市教育委員会	学びの歴史像 図録	同上
雅の世界 図録	大洗町幕末と明治の博物館	NEWS LETTER 9~11	同上
館報 10号	同上	要覧 2021年度	同上
桐のまち春日部 図録	春日部市郷土資料館	研究報告223・225~232	同上
かわはく 69~71	埼玉県立川の博物館	REKIHAKU 3・4	同上
紀要 21	同上	佐倉市史研究 34	佐倉市
郷土博物館だより 47	戸田市立郷土博物館	村会雑俎 2	同上
研究紀要 29	同上	令和元年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	
1964 戸田に聖火が灯る 図録	同上		佐倉市教育委員会
館報 48号・49号	市立市川考古博物館	令和2年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査	同上
館報 令和2年度	市立市川歴史博物館	白井田宿内砦跡(主郭部第1・2・3・4次)	
旧斎藤家文書第二次調査報告書		発掘調査報告書	同上
	一宮町教育委員会	上志津干場遺跡(第7次)発掘調査報告書	
年報 22	伊能忠敬記念館		同上
印西市史 資料編 近現代1	印西市教育委員会	酒々井発見伝	酒々井町教育委員会
研究紀要 3	印西市立印旛歴史民俗資料館	下宿栗ノ洲遺跡跡(第11次)	同上
館報 7号	大原幽学記念館	戦国の城のライフスタイル 講演会記録集	
柏市埋蔵文化財調査報告書 97			同上
	柏市柏インター西土地画整理組合	史跡墨古沢遺跡保存活用計画書	酒々井町
柏市柏インター西土地画整理事業埋蔵文化財		小池地区埋蔵文化財調査報告書(3)・(4)	
発掘調査報告書	柏市教育委員会		芝山町教育委員会
重要文化財旧吉田家住宅保存活用計画	同上	アーカイブズ・ニュース 23	
柏の歴史ある建物	同上		淑徳大学アーカイブス
令和元年度柏市市内遺跡発掘調査報告書	同上	パラスポーツの活力 図録	同上
柏市八反目台遺跡(第5次)(第7次)	同上	相撲浮世絵 図録	城西国際大学水田美術館
柏市大室小山台遺跡(第13次)	同上	小池地区埋蔵文化財調査報告書(1)・(2)	
柏市中馬場遺跡(第11次~13次)	同上		芝山町教育委員会
柏市林台遺跡(第10次)	同上	芝山町埋蔵文化財調査報告書 第10集	同上
柏市笹原遺跡(第19次)		芝山町の歴史と文化財	同上
	株式会社地域文化財研究所	年報 18	白井市郷土資料館
柏市寺下前遺跡(第15・16次)	同上	白井のあゆみ 図録	同上
令和2年度鎌ヶ谷市内遺跡発掘調査報告書		令和2年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書	
	鎌ヶ谷市教育委員会		袖ヶ浦市教育委員会
一本松遺跡 第4次発掘調査報告書	同上	令和2年度山野貝塚講演会記録集	同上
年報 34	鎌ヶ谷市郷土資料館	袖ヶ浦市史研究 20	袖ヶ浦市郷土博物館
郷土資料館だより 55~58	同上	病と医療 図録	同上
香取 118~120	香取神宮崇敬会	かつて見た袖ヶ浦の海 図録	同上

友の会だより 47・48		平成30年度富津市内遺跡発掘調査報告書	
袖ヶ浦市郷土博物館友の会		富津市教育委員会	
武士たちの明治 図録	館山市立博物館	令和2年度富津市内遺跡発掘調査報告書	同上
館報 95	同上	上ホシ遺跡(12)	船橋市教育委員会
房総の文化財 60	千葉県教育振興財団	夏見台遺跡(68)	同上
研究連絡誌 83・84	同上	夏見大塚遺跡(68)	同上
文化財センター年報 46	同上	取掛西貝塚(5)Ⅱ	同上
会報 113~114	千葉県文化財保護協会	東中山台遺跡群(72)	同上
千葉県の文書館 27	千葉県文書館	年報 令和2年度	船橋市郷土資料館
市原市分目岡田(利)家文書目録 3	同上	みゅーじあむ・船橋 16・17	同上
令和3年度SSH研究開発実施報告書(第1年次)	千葉県立長生高等学校	文化財が紡ぐ佐倉の歴史	宝金剛寺
令和3年度実践資料集(第5集)	同上	令和元年度松戸市内遺跡発掘調査報告書	
令和3年度SSH生徒課題研究論文集	同上	松戸市教育委員会	
関宿関所は川関所!? 図録		松戸市小野遺跡第41地点発掘調査報告書	
千葉県立関宿城博物館		株式会社地域文化研究所	
山本大貴 図録	千葉県立美術館	茂原市古文書目録集(その11)と代表的史料	
漆黒のモダン 図録	同上	茂原市教育委員会	
みる かたる つくる 48	同上	米本城跡b地点	八千代市教育委員会
千葉の民俗芸能 図録	千葉県立房総のむら	市内遺跡発掘調査報告書	同上
史料で学ぶ千葉市の今むかし	千葉市	二重堀遺跡h地点	同上
千葉いまむかし 34	千葉市教育委員会	埋やちよ 43・44	同上
ちば市史編さん便り 26・27		館報 27	八千代市立郷土博物館
千葉県市史編さん担当		令和元年度四街道市内遺跡発掘調査報告書	
高度成長期の千葉 図録	千葉市立郷土博物館	四街道市教育委員会	
紀要 22・23	千葉市美術館	紀要 23	板橋区立郷土資料館
千葉大学ユーラシア言語文化論集 23		再発見!いたばしの遺跡 図録	同上
千葉大学ユーラシア言語文化論講座		江戸と金沢を結ぶ板橋 図録	同上
令和元年度富里市内遺跡発掘調査報告書		美術館ニュース 283~287	
富里市教育委員会		サントリー美術館	
旧鈴木やゑ家発見の護符	同上	紀要 19号	相撲博物館
年報 43	流山市立博物館	京成らいん 728~736	京成電鉄
流山市史研究 24	同上	紀要 11・12	江戸東京博物館
紀要 44	成田山仏教研究所	博物館だより 129~131	
法談 67号	成田山法談会	葛飾区郷土と天文の博物館	
令和元年度成田市内遺跡発掘調査報告書		収蔵古文書目録 5	同上
成田市教育委員会		戦国時代の漆器 図録	同上
成田市史研究 45	同上	百万塔 169~171	紙の博物館
成田市の文化財 第52集	同上	博物館だより 80・81	家具の博物館
成田史談 66	成田市文化財保護協会	研究報告 第38輯	國學院大學博物館
ふるさと 41	成田市文化財保護協会公津支部	旗本土方家屋敷跡遺跡発掘調査報告書	
野田市史研究 31	野田市	国際文化財株式会社	
野田の桃源郷 図録	野田市郷土博物館	浅草寺什宝目録 第三巻 工芸品	浅草寺
年報・紀要 14号		けやき 25	大正大学
野田市郷土博物館・市民会館		大東文化大学博物館学講座だより 15	
		大東文化大学博物館学講座運営委員会	

たばこ盆 36 徳川黎明会
 年報 36 同上
 画像史料解析センター通信 92～95
 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター
 研究紀要 3 東京大学史料編纂所
 所報 56号 同上
 金鯪叢書 48 徳川黎明会
 日展ニュース 178～180 日展
 新工芸ニュース 86～87 日本新工芸家連盟
 「日本博」開催に係る効果検証報告書
 日本博事務局
 あるむぜお 136～139 府中市郷土の森博物館
 伝統と文化 44 ポーラ伝統文化振興財団
 自由民権 34 町田市立自由民権資料館
 三井美術文化史論集 14 三井記念美術館
 港区指定文化財 令和2年度 港区教育委員会
 承教寺跡・承教寺門前町屋跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ
 港区No.199遺跡発掘調査報告書
 新橋田村町地区市街再開発組合
 白金台町五丁目町屋跡遺跡発掘調査報告書
 一般社団法人化学及血清療法研究所
 相模小田原藩大久保家屋敷跡第2・北新網町屋
 敷跡遺跡 株式会社四門
 溜池跡遺跡発掘調査報告書 同上
 越後長岡藩牧野家屋敷跡第4次遺跡発掘調査報
 告書 大成エンジニアリング株式会社
 歴史館ニュース 7～10 港区立郷土歴史館
 館報 1 同上
 江戸の武家屋敷 図録 同上
 常設展示図録 同上
 人形 図録 同上
 研究紀要 1 同上
 『大鏡』作者の位置 悠光堂
 『大鏡』作者の位置 続編 同上
 紀要 44号 早稲田大学演劇博物館
 ニューズレター 11 同上
 史観 185・186 早稲田大学史学会
 鎌倉 130 鎌倉文化研究会
 歴史と民俗 38 神奈川大学日本常民文化研究所
 民具マンスリー 637～648 同上
 要覧 2021-2022 同上
 友の会会報 188～191
 熱川バナナワニ園研究室
 自然と文化 44 平塚市博物館

年報 44 同上
 資料集 45 横須賀市自然・人文博物館
 研究報告 65 同上
 開港のひろば 151～153 横浜開港資料館
 紀要 37号 同上
 資料館だより 229～232
 沼津市歴史民俗資料館
 館報 26号 久能山東照宮博物館
 あなたと博物館 234～239 松本市立博物館
 美術館だより 450～462 石川県立美術館
 名古屋成田山 803～814 成田山大聖寺
 文化財修理報告書 19 楽浪文化財修理所
 博物館学年報 52
 同志社大学博物館学芸員課程
 京都府埋蔵文化財情報 140・141
 京都府埋蔵文化財調査研究センター
 京都の遺跡 第9号 同上
 館報 52 住友史料館
 年報 令和2年度 大阪歴史博物館
 Fishing Café 68～69 シマノ
 民俗博物館だより 112 奈良県立民俗博物館
 館報 34 天理参考館
 霊宝館だより 137 高野山霊宝館
 子規博だより 151～152
 松山市立子規記念博物館
 萩 99～102 山口県立萩美術館・浦上記念館
 九歴だより 53 九州歴史資料館
 くまはく NEWS LETTER 5・6
 熊本市立熊本博物館
 館報 33 同上
 ひとのすがた、いのりのかたち 図録 同上
 大地とモノが語る熊本地震 図録 同上
 REIMEI 39-1～39-4
 鹿児島県歴史・美術センター黎明館

7. 令和4年度の展示予定

展示場所は成田山平和大塔1階霊光殿。企画
 展示の概要および展示期間は以下の通り。新型
 コロナウイルスの感染拡大によって中止・延期
 の場合があります。

【霊光殿】

節句の人形 2/25-4/10
 子どもの健やかな成長や幸せを願って飾られ
 る雛人形と五月人形。当館所蔵品からこれら
 を紹介する。

霊光館所蔵絵画展 4/16 - 6/12

霊光館の浮世絵や日本がコレクションの中から、季節や時事にちなんだ作品を紹介する。

成田山の算額 6/18 - 9/4

算額とは、数学の問題と解を記し、寺社に奉納した絵馬を指す。本展では、成田山に奉納された算額と関連資料を公開する。県立長生高校の協力で、算額の問題の詳しい解法も紹介。

鉄道史家白土貞夫所蔵品展 9/9 - 10/30

『ちばの鉄道一世紀』をはじめ鉄道史研究に功績をのこす白土貞夫氏は鉄道史料のコレクターでも著名である。今回は白土氏の鉄道コレクションを紹介する。

霊光館所蔵鉄道資料展 11/5 - 12/18

令和4年は明治5年(1872)新橋・横浜間に鉄道が開通して150年にあたる。成田山の発展にも鉄道は絶大な効果をもたらした。今回は鉄道開通150年を記念し、当館の収蔵品のなかから、鉄道に関連する資料を一挙公開する。

参道いまむかし 1/1 - 2/26

成田山参詣の楽しみのひとつとして、参道の景観は欠くことができない。時代とともに変わる参道景観と成田参詣の歴史を、絵葉書や絵図を通して概観する。

8. 研究報告

名所絵の虚実—二代歌川広重「諸国名所百景 下総成田山境内」—

猪岡 萌菜

二代歌川広重(1826-69)は、名所絵の名手・初代歌川広重の門人で、はじめ重宣を名乗り、初代が没した翌年にあたる安政6年(1859)、二代広重を襲名した。襲名後まもなく出版されたのが「諸国名所百景」のシリーズであり、「東海道五十三次」や「六十余州名所図会」、「江戸名所百景」といった名所絵で名を馳せた初代広重の後継者としての二代広重のお披露目の意味合いを持つシリーズであったと考えられている(『諸国名所百景の考察を中心に』(『初代広重と二代広重の諸国名所絵展—六十余州名所図会と諸国名所百景—』那珂川町馬頭広重美術館、2007年))。版元は刷りにこだわりのある魚谷栄吉、通称「魚栄」。このシリーズは81図が知られているが、揃物としては結局未完のままで終わっている。



【図1】二代広重筆「諸国名所百景 下総成田山境内」
成田山の参道風景を主要モチーフにした「下総成田山境内」【図1】は、この「諸国名所百景」

のうちの1点である。シリーズの版行が開始された安政6年5月の改印を有し、「奥州 松島真景」と並んで初めに出版された2点のうちの1点であった。縦長の1枚絵の画面のほぼ中央を雲が横切り、それによって前景と後景に分けられている。後景には「魚かし」の大提灯を下げた成田山の仁王門が建ち、林立する木々の間からは三重塔と本堂の屋根の葺が覗く。本図の出版時期に鑑みれば、わずかに屋根を覗かせる本堂は前年に建立された現在の釈迦堂と考えられるが、正面の千鳥破風が木々に隠されており見えず、判然としない。雲の前景には、宿屋が軒を連ねる成田山の参道風景が表されている。宿屋の1階部分では食事を提供していたようで、それぞれ看板を出している。これら看板類の文字の多くは判読が期待できるほど鮮明ではないが、左端の置き行燈(看板)には「二八そは(=そば) うんとん(=うどん)」とある。また馬上の女性の右側の看板の文字は「御茶つけ(=御茶づけ)」と読めそうである。蕎麦やうどんや茶漬けはいずれも当時の旅籠ではポピュラーなメニューであったと言えよう。ちなみに現在のはうなぎ屋が並ぶ参道であるが、画中にうなぎ屋は1軒も描かれていない。

成田山を描いた名所絵で江戸時代に遡り得る作品は、実はそう多くない。江戸から程近い参詣地として著名だった成田山であるから、名所絵の題材として盛んに描かれていても不思議ではないと思えるのだが、特に参道風景ともなると多色刷りのもので霊光館が所蔵するのは本図のみである。他には『成田名所図会』の挿絵として非彩色のものが知られている。こうした事情から、「下総成田山境内」は江戸時代の成田山や参道の様子を表した資料としてしばしば紹介されるし、当館でもそのような文脈で本図を用いることは多い。しかし本図を詳しく見ると、参道風景のありのままを正確に臨写したものとは言い難いことが分かる。

そもそも名所絵は絵画である以上、絵画的な演出やフィクションが介在するものである。また、目に見えた光景を見たまま正確に写し取る描き方は基本的に近代以降の作画方法で、前近代の絵画は先行作品や粉本を参照しながら描かれることが一般的であった。対象を目の前にして臨写する場合も当然あったものとみられる

が、それは本画制作のための下絵や資料としてスケッチされるものであり、絵は絵から創られるものであった。初代広重の作品の場合も、雨や夜であるために本来は見えないはずがない富士山が、あたかも実際に見えているかのように、その名所の景観に相応しい要素として当然のように描き込まれているといった絵画的なフィクションが織り交ぜられていることが指摘されている（大久保純一『広重と浮世絵風景画』（東京大学出版会、2007年））し、作画に際しては『山水奇観』『日本名山図会』『北斎漫画』『東海道名所図会』『江戸名所図会』など様々な種本に掲載された原図を参照し、描いた場には実際には赴かずに名所絵を仕上げたことが指摘されている（大久保前掲書の他、鈴木重三『広重』（日本経済新聞社、1970年））。

二代広重の「諸国名所百景」の場合も、必ずしも現地取材がおこなわれたわけではないようで、例えば同シリーズの「薩州枕崎海門ヶ嶽寿星踊」は、初代広重も種本として用いたことが指摘される講釈師・伊東陵舎の見聞記『鹿児島風流』（天保9年（1838）序）所載の挿絵「枕崎寿星踊の図」を原図とすることが紹介されている（橋口亘「歌川広重「六十余州名所図会」シリーズ「薩摩 坊ノ浦 雙剣石」の原図としての伊東陵舎『鹿児島ぶり』掲載「坊之浦 双剣石」」（『南日本文化財研究』28、2018年））。このように、なんらかの種本や原図に基づく景観表現は少なくないものと考えられる。

今回取り上げている「下総成田山境内」の典拠とみなしうる原図は、現状で確認できていない。先述の通り、成田山の参道風景を描いたものに、「諸国名所百景」版行前年の安政5年に刊行された『成田名所図会』の挿絵があるが、両者は参道を捉える視点の向きが真逆で、直接的な影響関係は見出せないようである。このように「下総成田山境内」が何らかの原図をふまえた作品であるかどうかは検討の余地が残されているものの、本図には明確に実景と異なる点がある。続いてその点を確認してみよう。

まず、本図は一見すると参道越しの成田山境内をひと目で捉えたような画面構成であるが、実際は、雲によって分断される画面の前景と後景は、それぞれ異なる視点から捉えられている。つまり雲で分けられた前景と後景で、視点

にねじれが生じていると考えられるのである。

雲の向こうの成田山境内に見えているのは仁王門と三重塔と本堂で、現在の参道からこれと同じアングルを求めると、西参道と表参道が分岐するY字路——表参道が成田山に向かって下り坂になる地点、上町と幸町の境目の横断歩道の辺りから北東方面に成田山を望んだ景色が近似する【図2】。この位置から眺めると、現在は三重塔よりも平和大塔の方が目立ち、また参道の建物や境内の木々で隠れて見えづらいが、仁王門の左側に三重塔と大本堂の屋根が並ぶ位置関係が、二代広重の絵とよく合致している。しかし【図2】からもうかがえる通り、ここから見える参道は前方に向かってゆるく蛇行しながら伸びており、「下総成田山境内」のように軒を連ねる店が横並びに見えることはない。

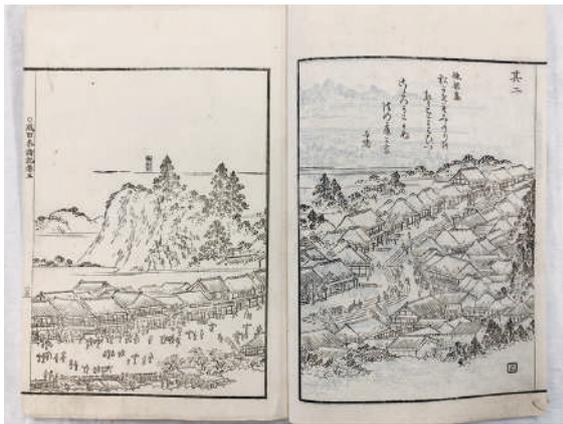


【図2】参道から成田山を望む

「下総成田山境内」の雲の手前の参道風景は、向かって左から右へ下る坂道が画面を横切り、宿屋が並ぶ様子をやや高い位置から見下ろす構図である。実際の表参道は緩やかなS字に蛇行しているから、これが参道のどこを切り取った風景なのか判然としないが、視点は南東方向から北西方面に向けられており、高い視点設定は神明山【図3】からの眺めを想像させる。このように、雲の奥と手前で景観を捉える視点はそれぞれ異なり、ふたつの視点から捉えられた景

観が、ひとつの画面の中に収められていると考えられるのである。

なお、画面手前の参道景観は、奥側に町屋の屋根が奥行きをもって描かれており、参道と成田山の仁王門との間に、家々が櫛比する集落のような場が存在しているかのようである。これは恐らく虚構で、参道に町屋が連なる様子をオーバーに描いたものではなかろうか。先述の通り成田山の表参道はS字にカーブしながら、現在の成田山総門から仁王門、大本堂に向けて伸びる参道と垂直に交わる。つまり表参道のすぐ脇に成田山境内が位置するので、このように家屋が密集する空間は、実際には存在しない。また、『成田名所図会』の挿絵では、宿屋が「まねき」や幟を挙げている様子が描かれているが、こうした描写は「下総成田山境内」には見られない。本図の参道が階段状になっている点も果たして現実を反映したものか疑問は残る。



【図3】『成田名所図会』挿図 成田山境内側から見た参道風景。左側の高台が神明山

二代広重が「下総成田山境内」を描くにあたり、成田を訪ね、現実の成田山や参道の景観を見、それを参照したのかどうか、確かなところは分からない。しかし本図はここまで見てきたような複数の視点やフィクションを織り交ぜつつも、違和感のない、もっともらしい画面としてまとめ上げられている。描かれた名所景観が必ずしも現実のありのままの姿ではないとしても、宿屋が軒を連ねる様子は、江戸から程近く、比較的気軽に足を運べる参詣地として人気を博した成田山の往時の雰囲気巧みに演出していると言えるだろう。

明治期の成田山境内図について

矢嶋 毅之

成田山の境内図には享和3年(1803)の「総州殖生郡成田山絵図」(鶴岡洞翠画)や昭和13年(1938)の「千葉県成田山新勝寺鳥瞰図」(松井天山画)などがある。その当時の本堂をはじめとする諸堂の位置など多くの情報が記されている。

明治時代になると、多くの成田山境内図が刊行された。今回はそれらについて紹介する。P.18の表は当館の所蔵資料のうち明治期に発行された成田山全図であるが、これらは全て成田山が発行したものではない。当該期において成田山は自寺の境内図を発行していない。なお、欄外に販売価格が記されており、これらは門前町の土産物店などで販売されていた。

まず発行者についてみてみよう。発行者のうち、三橋伝吉・三橋長兵衛・紺谷長之助・上村留吉・後藤鎌三郎は成田の人で、三橋伝吉・同長兵衛は一粒丸という丸薬を売っていた。紺谷・上村・後藤は土産物販売店であったと考えられる。ほかは東京の人であるが、宮本了は茨城県出身の士族で刊行時には東京在住となっている。14においては、図版の広告が相違するだけのものがある。一方は成田山一粒丸の販売店をいれて、もう一方は新勝おこし・栗ようかんなどの成田名物の販売店をいれてある。

3種類の図版を発行しているのは三橋吉兵衛である。6の図は明治26年10月発行であるが、この図は3版で初版は明治22年9月である。明治45年3月66版とあるので、平均して年3回は発行していることになる。明治以降に成田山の境内で変貌しているのは本堂の後方で通称奥山と呼ばれる場所と現在の三重塔の後方に広がる成田山花園(現成田山公園)である。奥山には成田パノラマ館や成田座など参詣者のための娯楽施設があった。成田山花園には信徒からの建碑などがある。三橋吉兵衛は、こうした変化があれば加筆して発行していた。

三橋家は薬舗店で、現在も門前で営んでいる。創業は安永6年(1777)とも伝えられている。成田山一粒丸などの道中薬を販売していた。当主は代々吉兵衛を名乗っていたようで、この頃の吉兵衛は商売の傍ら、成田山の信仰拡

大にも努めていた。自ら明治19年1月に『成田山不動明王略縁起』、同27年4月に『成田山不動明王由来記並靈験記』、同年5月に『成田山不動尊印文大縁記』をそれぞれ刊行している。三橋が刊行した『成田山不動明王略縁起』は、三橋版の成田山全図の略縁起とほぼ同じものである。三橋は6のほかに7・9と発行している。9には初版とあるが再版は確認できていない。6は大正初期まで発行しているが、7・9は一度発行しただけであろうか。6と7・9の相違点は中村両替店が奉納した額の図がないことである。

次に図版の構成をみると、6にあるように仁王門・本堂（現釈迦堂）・光明堂、仁王門下の堂庭・本坊を鳥瞰する形で描かれている。どの図にも成田山創建の由来を記した「成田山不動明王略縁起」が含まれている。9・12は「成田山御由来記」とあるが、内容は略縁起と同一内容である。1・2・4には門前町にあった旅館の一覧が記されている。3は略縁起に記されている道誉上人が成田山の靈験を授かる場面が描かれている。

6の図からそれまでとは一変して諸堂・奉納碑などの情報が一気に増えている。この図にも略縁起はあるが額装仕立てにしてある。その下に住職の肖像画と明治20年1月に東京中村両替店が奉納した「大判小判貨幣の額」が描かれている。これは大判・小判など貨幣の複製61点を貼り付けたもので、本物の貨幣は額といっしょに成田山に奉納した。額の大きさは縦121.0cm・横209.5cmと大きな額である。

この中村両替店についてはあまりよくわかっていない。店主の中村武三は滋賀県出身で、生家は商人とみられる。中村は明治初めに上京し、明治13年頃には両替商を始めたとされる。東京芝区烏森町1番地に出店していた。現在の港区でJR新橋駅の西側にあたる。顧客の中には岸田吟行や星亨などの著名人もいたが、大半は資産家や大規模な商人でなく、中流もしくは下級の旧武士層であった。それほど大規模でなかった中村両替店が商売繁盛の願いをこめて、この額を成田山に奉納したのであろう。

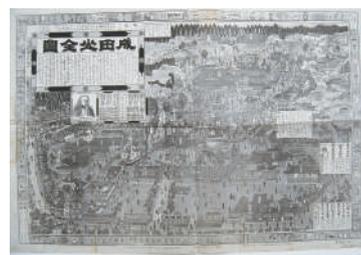
三橋吉兵衛は、この額の図版を成田山全図に、縁起・住職の肖像画とセットにした。三橋が発行した成田山全図には、成田山一粒丸の宣

伝は入れているが、とくに中村両替店は宣伝していない。三橋吉兵衛が何故この額をいれたのかは不明である。奉納後の中村両替店の動向は把握できない。明治半ば頃に廃業したのでないかとみられる。そうであるならば、明治30年以降の成田山全図には、この奉納額の図があったので店舗がなく紹介されていたとすると、寂しさを感じる。ただ中村両替店の額をいれていないものは、三橋吉兵衛発行の7・9と10・13である。ただし7の外枠に奉納品のひとつとして描かれている。7・9は三橋版なので中村両替店の現状を知っていたからとも考えてしまう。10は三橋でなく小田垣利八が成田山一粒丸の販売店として紹介されている。また、この図は8版で、初版は明治28年4月である。13は新刻とあるが10をもとに、明治29年以降、境内で変化のあったところを加筆している。

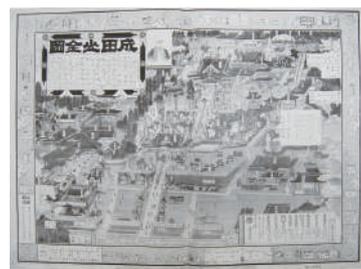
6の図を発行以降、他の成田山全図はこれをもとにしていたと思われる。三橋吉兵衛が版權を所有していたので使用の際に使用料を払ったのであろう。



下総成田山絵図(表中1)



改正成田山全図(表中6)



成田山全図(表中9)

表 明治期の成田山図

番号	絵図名	発行年月	発行者	備考
1	下総成田山絵図	[明治13年]	三橋伝吉	[略縁起] 旅館一覧(34軒) 29.4 × 24.2
2	成田山全図	[明治15年]	三橋伝吉	略縁起 旅館一覧(34軒) 40.0 × 27.8
3	[成田山全図]	明治18年4月	宮本了 (茨城県士族)	成田山略縁起 道誉上人靈験の図 36.4 × 24.0
4	改正成田山全図	明治20年2月	紺谷長之助	成田山不動明王略縁起 旅館一覧(37軒) 39.5 × 37.0 明治23年2月に改正版発行
5	下総国成田山全図	明治22年1月	伊藤武左衛門 (東京府士族)	成田山不動明王略縁起 54.0 × 37.5
6	改正成田山全図	明治26年10月	三橋吉兵衛	成田山不動明王略縁起 中村両替店奉納額 の図 三池照鳳肖像 51.0 × 37.2 三版 初版は明治22年9月14日
7	成田山全図	明治27年5月	三橋吉兵衛	成田山不動明王略縁起 [三池照鳳肖像] 成田山全図 51.0 × 37.2
8	改正成田山全図	明治27年8月	高塚東太郎	成田山不動明王略縁起 石川照勤肖像 中村両替店奉納額の図 60.0 × 38.5
9	成田山全図	明治27年10月	三橋吉兵衛	成田山不動明王略縁起 [石川照勤肖像] 51.0 × 37.2 初版
10	新刻改正成田山全図	明治29年4月	原山兵治	成田山御由来記 石川照勤肖像 54.5 × 38.5
11	成田山全図	明治31年4月	上村留吉	成田山不動明王略縁起 石川照勤肖像 中村両替店奉納額の図 55.0 × 39.0
12	改正成田山全図	明治33年3月	後藤鎌三郎	成田山不動明王略縁起 石川照勤肖像 中村両替店奉納額の図 61.7 × 46.1
13	完全新刻成田山全図	明治34年4月	金子豊吉	成田山御由来記 石川照勤肖像 56.5 × 41.0
14	成田山全図	明治41年1月	田中印刷所	成田山不動明王略縁起 石川照勤肖像 中村両替店奉納額の図 39.5 × 57.5
15	改正成田山全図	明治42年	東京印刷局	成田山不動明王略縁起 石川照勤肖像 中村両替店奉納額の図 58.0 × 49.5
16	改正成田山全図	明治43年	田中旦次郎 (田中印刷所)	成田山不動明王略縁起 石川照勤肖像 中村両替店奉納額の図 55.6 × 39.6
17	改正成田山全図	明治44年	調子印刷部	成田山不動明王略縁起 石川照勤肖像 中村両替店奉納額の図 55.0 × 41.0

備考欄には絵図の寸法をいれてある。横・縦の順で単位はcm。〔 〕は筆者が類推している。番号が太字のものは絵図の写真を掲載している。

令和2年に千葉県立長生高等学校の生徒が当館収蔵の明治35年に成田山に奉納した算額を見学しました。その後、生徒たちは算額を解くために必要な独自の公式が使われているのではないかと仮説を立て、算額に記された問題を解きました。今回は、その成果の一部をご紹介します。

成田山に奉納された算額の解法の比較

千葉県立長生高等学校理数科

勝山 凱文

成川 葵

堀江 若菜

1. 序論

文科省が指定した高等学校の先進的な理系教育を行うスーパーサイエンスハイスクールの指定校である長生高校の課題研究において、私たちは千葉県にある算額について調査をした。算額は先生方から教わり、現在の洋算と昔の和算の違いに面白さを感じ、約3年間和算と洋算の調査を行った。

算額とは創案した数学の問題やその解法を書いて社寺に奉納された絵馬のことである。算額の文化は、江戸時代中期に始まったとされており、主に美しい図形を扱った問題が存在し、そのほとんどに彩色が施されている。

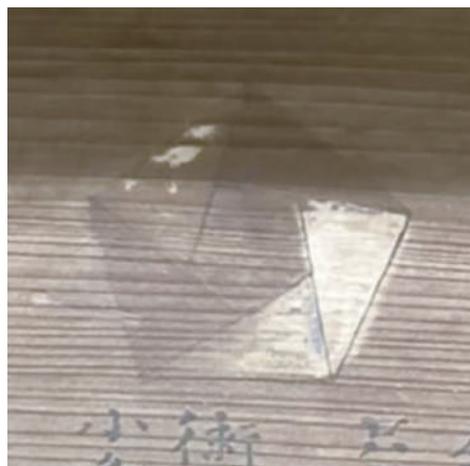
千葉県に奉納されている算額の所在を調査したところ、君津市や、富津市などの南房総から、野田市や柏市などの東葛地域まで点在していることがわかった。さらに算額の密集地を調査したところ、成田山にある霊光館には多くの算額や、和算に関する資料が保管されていたので、そこで算額の問題の収集を行った。その図形から、私たちは図形を解くために必要な情報量が少ないことに気がつき、和算と洋算の解法の比較を行った。

2. 算額の解読と解法

奉納されている算額は、年月を経て問題文や図形が擦り切れてしまっており、復元をした。

問題文と解説は漢文の解読を行い、現代語訳に直した。図形は、「Geogebra」を使用し、見やすく復元した。それらを元に現代の高校数学までの知識による解法を作成した。

問題 1

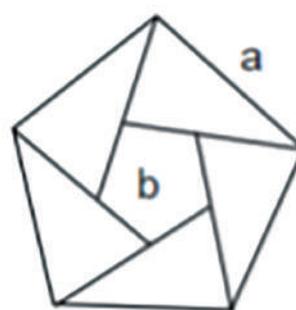


今有^三如^レ図設^二五角形^一斜分^ケ六等^二積^一之^一、只言、大角面一寸、問^二小角面幾何^一。

答曰、小角四分〇八毛有奇。

術曰、置^二五個^一、加^二入一個^一、除^二大面^一、開^二平方^一、得^二小角面^一、合^レ問。

図形の復元



現代語訳

問題 図の正五角形の1辺を1寸とし、正五角形の面積を6等分した時にできる内側の正五角形の1辺の長さはいくつか答えよ。

答え 4分8毛余り

解法 5に1を足す。平方根をとり、逆数にする。

有理化すると、問いに合う。

現代の解法

大きい正五角形 a と小さい正五角形 b の比を考える。どちらも正五角形なので $a \propto b$ となる。

面積比は $a^2 : b^2 = 6 : 1$ なので、相似比は $a : b = \sqrt{6} : 1$ である。

相似な図形の辺の比はその図形の相似比は等しい。

したがって、a の一辺が一寸のとき b の一辺の長さを $x (x > 0)$ とすると

$\sqrt{6} : 1 = 1 : x$ これを解くと

$$x = \frac{1}{\sqrt{6}} \approx 0.408 \quad \text{よって、4分8毛余り。}$$

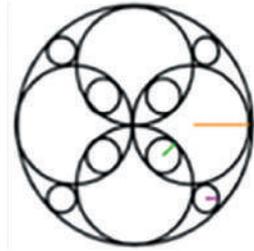
問題2



今有下如レ図設ニ外円ニ容中大小
 円拾二個上、只言、其中円径一寸、
 問ニ小円径幾何ニ。
 答曰、小径八分七厘二毛余。
 術曰、置ニ八個ニ、開ニ平方ニ、
 加入拾二個ニ、以ニ拾七個ニ除レ之、
 乘ニ中径ニ、得ニ小径ニ、合レ問。

図形の復元

大円の半径(橙)
 中円の半径(緑)
 小円の半径(桃)



現代語訳

問題 右図の外円の中に大円、中円、小円を置く。中円の直径を一寸とすると、小円の直径はいくつか。

答え 8分7厘2毛余り

解法 8を置き、平方根をとる。

12を加えて、17で割る。

これを解くと、問いに合う。

現代の解法

大円の半径 (橙) = L 中円の半径 (緑) = $\frac{1}{2}$
 小円の半径 (桃) = r とする。

- ①外円の中心から小円との接点まで線を結ぶ。
- ②小円の中心と大円の中心を結ぶ。
- ③大円の中心と中円の中心を結ぶ。
- ④三平方の定理を使い中円の中心から小円の中心までの長さ (x とおく) を r で表す。

⑤ $2L = r + x + \frac{(1+\sqrt{2})}{2}$ に L と x を代入する。

小円の半径 $r = \frac{(6+\sqrt{2})}{17}$ となり、求めるのは直径

なので2倍にして

$2r = 0.872\dots \approx 0.872$ となり、小円の直径は 8分7厘2毛余り。

3. 結果

和算、洋算どちらでも同じ答えにたどり着いた。和算と洋算を比較すると、和算のほうが答えにたどり着くまでの過程が少なかった。

4. 考察

和算家による解説と似たような計算になった。これは、考え方が同じ事を示すので、洋算が伝わっていない当時、三平方の定理などの先

駆けではないかと推測される。

公式や定理が解説に書かれていないため、和算家たちの中での公式、または一般常識のようなものだったのではないかとと思われる。あるいは、解説も楽しむためにあえて詳しく書かなかったのではないかと考えられる。独自の公式は見つけることができなかったが、これは、様々な流派による解法がなされていたと考えられる。また、他の問題も調査していくと、高度な微積分を必要とする面積計算の問題もあり、当時の和算は現代の高等教育を超えるレベルに達していたと推測できる。

和算の発展は、様々な難問を解くことだけでなく、解説も解くことで多くの和算家が解説を求め、それを発信していくことにより、日本全国に発展していったのではないかと考えられる。

5. 今後の課題

未だ解けていない問題や、別解を作成し、和算家たちが導き出した解法への理解を深める。また、他県の算額の解法を求め、千葉県に奉納されている算額の特色について調査する。

6. 参考文献

国立国会図書館、江戸の数学 第1部 和算の歴史、<https://www.ndl.go.jp/math/>
平山諦・下平和夫・広瀬秀雄『関孝和全集』大阪教育図書株式会社、1974
平山諦・大野政治・三橋愛子『千葉県の算額』成田山資料館、1968

本校では生徒全員、個々にテーマを持って課題研究を行っており、とくに理数科では理数科目に特化して3年間研究しています。上記の3名は2年次の春に算額というものを知り、興味を持ったため研究を開始しました。調査をすると県内には君津や成田、海匝地域に算額が現存していることが分かり、複数の算額や文献が残っている成田山霊光館にて見学・調査をさせていただきました。資料は論文やポスター、第14回高校生理学研究発表会のオンライン発表用スライドの作成時に使用いたしました。成田山

霊光館学芸員の矢嶋毅之様、猪岡萌菜様には調査の手配や資料の提供をしていただき、感謝申し上げます。

千葉県立長生高等学校
教諭 金光 康佑
田村 真人

成田山書道美術館



立地は、東京ドーム約 3.5 個分の面積を有する広大な日本庭園、成田山公園の一角に位置するため、四季折々の自然美と調和のとれた美術館となっており、作品とともに空間も楽しむことができる。

令和 3 年度事業報告

職員数 11名
 兼任 2名 (館長、課長)
 常勤 6名 (男2・女4)
 非常勤 3名 (嘱託1・パート2)

概要

当館は、書道文化向上と芸術普及の発展に資することを目的として、平成 4 (1992) 年11月 1 日に開館。公益財団法人成田山文化財団を母体とする書の総合美術館で、成田山新勝寺に参詣される多くの方々の篤志により活動している。

収蔵品は、近現代の書作品を中心に古筆や古写経、中国の拓本なども充実しており、現在 6,000 余点を数える。展示は、あらゆる角度から書が楽しめるよう、毎回新鮮な展示を心掛けながら、年 6～7 回のペースで企画展を開催。

1. 展示事業

令和3年度、次の展示事業を行った。

- 展示1・2階展示会場
- ・成田山の文化財－書・絵画・工芸－第37回成田山全国競書展
 - ・収蔵優品展 日本の書 1964×2021
 - ・生誕120年松井如流と蒐集の拓本
 - ・篆刻家河野隆遺作展
 - ・新春特別展 うるはしのかな
－平安古筆から現代まで－
 - ・収蔵優品展 小坂奇石と江口大象

展覧会名称／期間	展示場／作品数	入館者数／開館日数
成田山の文化財－書・絵画・工芸－ 4月1日(木)～5月16日(日) 第37回成田山全国競書展 4月1日(木)～4月18日(日)	1階/28点・2階/26点 1階/優秀作品365点	1,355名/40日 625名/16日
収蔵優品展 日本の書 1964×2021 5月22日(土)～8月29日(日)	1・2階/82点	2,080名/82日
生誕120年松井如流と蒐集の拓本 9月4日(土)～10月24日(日)	1・2階/224点	1,565名/44日
篆刻家河野隆遺作展 10月30日(土)～12月19日(日)	2階/113点 1階/46点	2,820名/44日
新春特別展 うるはしのかな－平安古筆から現代まで－ 4年1月1日(土)～2月20日(日)	1・2階/107点	2,172名/45日
収蔵優品展 小坂奇石と江口大象 2月26日(土)～3月25日(日)	1・2階/81点	822名/24日

展示要旨

成田山の文化財－書・絵画・工芸－ 第37回成田山全国競書展

今回は書、絵画に工芸を含めた、成田山の文化財を展示した。狩野一信による十六羅漢図に逸見一純による同作の摸写作品などの大作がならび、襖絵や蒔絵による蓋物などの調度品、さらにメインとなった七条を展示した空間は、化政文化の華々しさにあふれる内容となった。また、歴代の貫首猊下が着用した七条（五領）を、一般向けに当館で公開するのは初めてのことで、成田山のボランティアガイドの方々を中心に、成田山に関心の高い来館者が多かった。展示にあたっては、新勝寺関係者の方々から多分に助言をいただいた。周知に時間が掛かったもののコロナの影響下で今展を全うできたことは幸いであった。イベントを設けることはできなかったが、SNS等を使い、その魅力を発信することに努めた。



展示風景

収蔵優品展 日本の書 1964×2021

延期された東京オリンピックに合わせ、オリンピック前後の活発な文化活動を書作品を通して回顧することを目的とした本展は、緊急事態宣言が発令される中、予定通りに計画を実行することが出来た。1960年代と東日本大震災以降の現在の書を見比べることが出来る構成は、内容的には戦後書道を回顧する展覧会として差し支えない充実した展覧会であったと考えている。グローバルな視点や、その時代の出来事を想いを込めてしたためた作品は、この時代の遺

産として永く語り継がれていくはずである。オリンピックという一大イベントは書文化の普及を図る上で、またとないチャンスであった。世界中で日本文化の最たるものの一つとして広く脚光を浴び、注目されることも期待できたからである。この点大会の縮小開催は影響が大きかった。国内のメディアの関心は高く、新聞各紙で全国版の記事が掲載されるなど、反響が大きかっただけに大変残念な思いがしている。

このような状況下で2,000人を超える入館者があったことは堅調な結果だったと考えている。現代という私たちに身近な時代をテーマとして書の時代性を再確認できたことは大いに手ごたえがあった。今後の展覧会のレガシーとして大事にしていきたい。



展示風景

生誕120年松井如流と蒐集の拓本

1900年に誕生した松井如流は2020年に生誕120年を迎え、これを記念した展覧会を昨年予定していたが、新型コロナウイルスの影響で1年延期することとなった。平成26年から27年にかけて、遺族の松井洋子氏、門下の鈴木響泉氏から如流の作品および蒐集の拓本、関係資料をご寄贈いただき、本展でその全てを紹介できた。如流の10年ぶりの回顧展で、有名作はもちろんのこと、これまで紹介される機会の少なかった作品や国内のコレクションとしても優れた拓本資料は注目を集めた。

10月に入り緊急事態宣言が解除されたことから入館者が徐々に増え、書を学ぶ手本である拓本を見る機会として高校生の団体解説も受け入れた。コロナ禍のなか、1,565名の方にご来館いただけたことは大きい。作品と拓本と質量とも

に充実した展示に、何度も足を運ぶ来館者も見受けられた。

本展で展示した作品資料93件、拓本131件を収録した図録を作成し、朝聞書会の先生方には多大なるご協力をいただいた。900冊の図録は会期中に完売し、展覧会、図録ともに来館者の満足度も高かったように見受けられた。今後の活動の励みにもなった。



展示風景

篆刻家河野隆遺作展

本展は新型コロナウイルス感染拡大の影響で1年延期して開催した。日展や現代書道二十人展などに出品した代表作を中心とするもので篆刻・書・画110件を展示した。これまでに古河市篆刻美術館、第三十三回全日本篆刻連盟展において河野隆遺作展を開催しているが本展が最大規模の展示とあって注目を集めた。講演会と関連イベントは定員100名、事前予約制で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大を考慮して共にリモート開催とし、YouTubeにて配信した。講演会「河野隆の篆刻」では綿引滔天先生に展示作品の中から34点の作品を解説していただいた。作家の視点からみた丁寧な作品解説は好評で、再生回数は1,777回を数えた。関連イベント「河野隆という人」では、高木厚人先生に河野先生の人柄についてお話いただいた。河野妙子夫人、実妹の三浦洋子氏、門下生の山本晃一氏、当館学芸員の高橋利郎が加わり、教師として、作家として、父親として、兄として、師弟関係など様々な河野先生の姿が語られ、河野先生の人としての魅力を紹介することができた。こちらは、8日間で644回再生された。また、このイベントに関連して「100

字で綴る河野隆年表」と題し、関係者からエピソードと写真を集めた。140名に執筆していただき、写真の総数は576件に及んだ。これらは事後、冊子にしてまとめ発行した。コロナ後、当館で初めて開催したイベント「篆刻体験」は2日間で71名の参加があり、河野門下による懇切丁寧な指導のおかげで参加者の満足度は高く、体験することによって篆刻の魅力を感じてもらえる機会となった。本展の出陳作品を収めた図録『篆刻家河野隆遺作展』やオリジナルマグネットも人気を博し、多くの方々に受け入れていただいた。

本展は河野先生の篆刻・書・画の作品を通して作家としての技量を再確認すると同時に、人としての魅力を改めて感じられる展覧会となった。コロナ禍中に2,820名の来館者を迎えられたのは河野先生の偉大さだろう。講演会を対面で行うことは叶わなかったが、リアルタイムだけでなく、以後10日間前後配信を継続したことで、多くの方の目に留まり、これが広報的な役割を果たし、来館者の増加につながったと思われる。



展示風景

新春特別展 うるはしのかな -平安古筆から現代まで-

本展では仮名の作品に注目し、流麗な平安古筆から現代の大字仮名の作品までを収蔵品を中心に紹介した。当館は江戸時代から現代の書を中心に、松崎コレクションの平安鎌倉時代の古筆や伊藤鳳雲コレクションの古筆や桃山江戸の書も充実している。当館の特質を生かし、時代とともに変化する仮名作品を紹介できた。

1、2月の展覧会は初詣とあわせて来館され

る方も多い。お正月に相応しい百人一首を題材にしたものやかるた形式の作品、華やかな紙や表装の作品を展示し、日本独自の文化である仮名の美しさを感じていただけるよう努めた。



展示風景

2. 入館者数

	月別	入館者（開館日数）	1日平均
3年	4月	832名（26日）	32名
	5月	800名（22日）	36名
	6月	712名（26日）	27名
	7月	608名（23日）	26名
	8月	483名（25日）	19名
	9月	523名（23日）	22名
	10月	1,214名（23日）	52名
	11月	1,657名（25日）	66名
	12月	991名（17日）	58名
4年	1月	1,498名（27日）	55名
	2月	783名（20日）	39名
	3月	713名（22日）	32名
3年度合計		10,814名（279日）	38名

3. 普及事業

<展示広報>

- ・展示において、ポスター・案内はがき・展示目録を作成。各所への配布・掲示により、集客力の向上を図った。
（※制作は展示関係者の寄付金による）
- ・生誕120年松井如流と蒐集の拓本の図録を900部発行。完売。
- ・河野隆遺作展展覧会レポートを1,000部発行。
- ・案内リーフレット（日本語・英語・中国語）

を、成田空港や空港周辺ホテルなど近隣施設に配架。

- ・新勝寺企画課と連携し、報道機関および関係施設へのプレスリリースを実施。

<講演会・体験>

- ・篆刻家河野隆遺作展

講演会および関連イベントをリモートで開催
第1回 演題「河野隆の篆刻」

講師 綿引滔天氏 11月13日（土） 12時～



講演会撮影風景

第2回 演題「河野隆という人」パネラー 高木厚人氏、河野妙子氏、三浦洋子氏、山本晃一氏、高橋利郎 12月11日（土） 12時～



関連イベント撮影風景

篆刻体験 各回定員20名 講師 晨風会
11月27日 午前の部 参加者19名
 午後の部 参加者18名
11月28日 午前の部 参加者20名
 午後の部 参加者14名



篆刻体験風景

＜特別展示・講座＞

会議室・研修室にて、高木厚人氏主催の展覧会および特別講座を開催。

【展示】

歿後22年高木東扇展・東扇コレクション日比野五鳳作品展

5月22日～6月3日 研修室
KOREMADEの高木厚人展－成田篇－

6月5日～6月20日 研修室

【講座】講師はすべて高木厚人氏

第1回「五鳳作品の魅力/東扇作品の魅力」

5月29日（土）14時～ 研修室

第2回「高校生のためのかな臨書講座」

6月5日（土）14時～ 研修室・会議室

第3回「華邨から学んだこと・東扇から学んだこと」

6月13日（日）14時～ 研修室

第4回「実習講座 100首を書こう」

6月19日（土）9時30分～14時 会議室



特別講座風景

＜成田山文化財団年報の発行＞

「令和2年度 成田山文化財団年報 第12号」を3館（成田山仏教図書館・成田山霊光館・成田山書道美術館）合同で2,000冊発行し、5月11日に合計807冊を各関係機関に発送。

＜ホームページ＞

充実したホームページの公開に努めるとともにSNSの即応性を利用した素早い広報（情報発信）により、書道愛好家への興味関心を促す。また、昨年度、休館中に開設した「学芸員のブログ」は好評につき、継続して閲覧を可能とした。

URL：<https://www.naritashodo.jp/>



HP



Facebook



Twitter

＜博物館実習生の受け入れ＞

本年度は、前後期に振り分けて次の大学より11名を受け入れた。

大東文化大学 3名・二松学舎大学 1名（8/26～9/1）、筑波大学 5名、その他 2名（10/21～10/27）



実習生によるキャプション制作風景

＜成田高校付属小学校との連携＞

当館学芸員（谷本）が付属小学校5・6年生の書道授業を担当（6、7、11、12月の32時間）。なお、授業で制作された書作品は、当館会議室にて「書き初め展」として展示発表された。

＜奈良市杉岡華邨書道美術館との連携＞

当館所蔵の古筆と古写経を奈良市杉岡華邨書道美術館に貸出しし、松崎コレクション展として年1回の展覧会を3年間継続して開催。また、当館学芸員（田村）を講師として書道講座を実施。演題「松崎春川・中正の蒐集活動」

4月24日（土）14時～



書道講座風景

<大宮光陵高校との連携>

大宮光陵高校にて当館学芸員（田村）を講師として講演を実施。演題「学芸員の魅力」

12月13日（月） 14時～15時30分



講演風景

<研修見学>

教育機関との連携授業および書道関係などの団体見学で、学芸員により展示解説を行った。

- ・八千代市教育研究会一行 11名 6月16日
- ・大東文化大学一行 54名 6月27日
- ・成田山勸学院一行 6名 6月30日
- ・大東文化大学一行 52名 7月25日
- ・あずさ第一高等学校一行 87名
10月6、12日
- ・成田国際高校一行 122名
10月12、14、15、21、23日
- ・成田市生涯学習大学校一行 23名
12月1日
- ・千葉県高校書道部会一行 60名 12月15日
- ・翠篁会一行 18名 1月13日



成田国際高校の鑑賞授業風景

<会議室・研修室の貸出>

当館では、2階会議室及び研修室を地域文化の発展を目的に書道だけでなく芸術全般に関する発表や創作の場として提供している。

令和3年度の主な利用団体および個人

- ・高木厚人氏主催による展覧会及講座
- ・大東文化大学書道学科の集中講義
- ・大東文化大学による教員免許更新講習
- ・JALふるさと応援隊による講演会
- ・千葉県高校書道部会による書道研修
- ・成田市選挙啓発書き初め展
- ・成高付属小書き初め展
- ・爽風会書道教室
- ・玉手かな書道教室
- ・成田写仏会
- ・渡貫書道教室
- ・いには俳句会
- ・不動の庭で遊ぶ会（俳句）
- ・かつらぎ俳句会
- ・その他展覧会等 4件

4. 収蔵資料（3年3月31日現在）

- ・作品数 6,036件
- ・図書数 8,708冊

【寄贈作品・資料】

次の方々より、貴重な作品をご寄贈頂きました。ここに、厚くお礼申しあげます。

作品・資料名	寄贈者
・安達嶽南 作品 13件 白井進氏、森佳子氏、安達俊三氏	
・白井進 作品 1件	白井 進氏
・中野越南 作品 1件	谷口久代氏
・上條信山 作品 1件	塩原匡浩氏
・牛窪梧十 作品他7件	牛窪梧十氏
・村上俄山 作品 7件	村上俄山氏
・田中節山 作品 1件	田中節山氏
・松崎春川 作品 1件	松崎中正氏
・角田大壤 作品 1件	角田大壤氏
・金子鷗亭 作品 13件	金子 均氏
・井上清雅 作品 1件	井上清雅氏
・土橋靖子 作品 1件	土橋靖子氏

【貸出作品】

- ・奈良市杉岡華邨書道美術館 「松崎コレクションの古筆と古写経展①」へ 古筆、古写

- 経作品 17件
 ・全国書美術振興会「第五十回日本の書展」へ
 黒野清宇作品他 5件
 ・書海社「第70回書海社展」へ 松本芳翠作
 品37件、谷村憲齋作品13件
 ・書道芸術院「第75回書道芸術院展」へ 香
 川峰雲作品 7件
 ・回瀾書道会「第70回回瀾書道会展」へ 豊
 道春海作品他 8件
 ・書星会「房総に生きた書家浅見錦龍展」へ
 浅見錦龍作品 9件

【寄贈図書】

個人や団体など各方面の方々より、図書資料
 のご寄贈がありました。ここにご芳名を記し、
 お礼申し上げます。

図書名	寄贈者
記念特別展 會津八一と茶の湯の世界	會津八一記念館
雁魚來往 9 - 小山富士夫・喜多武四郎・齋藤 三郎と會津八一の往来書簡 -	同上
受贈記念 コレクター 寺田小太郎 - 難波田龍 起、相笠昌義を中心にして -	會津八一記念博物館
安達嶽南回顧展 安達嶽南回顧展実行委員会	池田桂鳳氏
池田桂鳳書展	池田桂鳳氏
萬葉の流れの中にⅢ 石澤桐雨 萬葉二千二十 首展	石澤桐雨氏
一東 527,528,530 - 540	一東書道会
研究紀要 26	出光美術館
館報 192,193	同上
伊藤柳静書作展 - テーマ「恋」 - 伊藤柳静氏 館報 15	稲敷市立歴史民俗資料館
稲敷市古文書目録、江戸崎家文書（稲敷市立歴 史民俗資料館調査報告 4,5）	同上
年報 22	伊能忠敬記念館
廣瀬臺山	牛窪梧十氏
洗硯 1 - 1 ~ 9	同上
新潟県文人研究 24	越佐文人研究会
黄檗文華 140	黄檗山萬福寺文華殿
博物館学芸員課程年報 2020年度 22	桜美林大学
大洗町幕末と明治の博物館報 R2年度	大洗町幕末と明治の博物館
雅の世界 - 生越仁子具合わせ作品集 -	同上

- 美をつくし（大阪市立美術館だより 195）
 大阪市立美術館
 記念館ノート 4種（大田区立龍子記念館他）
 大田区立龍子記念館
 法政史学 87,88,91 - 93 小口雅史氏
 50周年記念 役員作品集五十年の歩み
 尾崎學氏
 第16回小原道城書作展作品集 小原道城氏
 第17回小原道城書作展作品集 - 文人書家の集大
 成 - 書・水墨画 同上
 道風 道風記念館だより 57 - 61
 春日井市道風記念館
 書の美、書の価値～つたえらということ～ 春
 日井市道風記念館40周年記念図録
 春日井市道風記念館
 社報 香取 119,120 香取神宮崇敬会
 年報 R2年度 神奈川近代文学館
 神奈川近代文学館 151 - 155
 神奈川文学振興会
 郷土資料館だより 55 - 58
 鎌ヶ谷市郷土資料館
 百万塔 169,170 紙の博物館
 学 皎月 碧蘇 蜂城 連立個展 河東純一氏
 河東象外遺作集 同上
 第9回寄鶴文社書展作品集 寄鶴文社
 第16回淇水書展 淇水文会
 須田記念 視覚の現場
 きょうと視覚文化振興財団
 70周年記念史 京都書道連盟
 館報 久能山東照宮博物館
 古文化研究 20 黒川古文化研究所
 和鏡賞鑑 - 図像でたどる千歳のねがい - 同上
 百周年記念誌 慶応義塾大学書道会
 尾崎邑鵬作品集 芸術新聞社
 五鳳と光鳳 かな書”きよら”の系譜 同上
 役員作品図録 83回 謙慎書道会
 第52回玄武書道展作品集 玄武書道会
 学術研究助成成果論文集 6
 日本習字教育財団
 若木書法 20 國學院大學
 研究紀要 9 五島美術館
 「大正イマジユリイの世界」と佐倉
 佐倉市立美術館
 カオスモス 6 沈黙の世界 同上
 久保浩 - 「眼と手」の力 同上

年報 16	下妻市ふるさと博物館	大東文化大学文学部書道学科
下谷洋子書展－上州の韻き・こよなく・かな－		KOREMADEの高木厚人展カタログ
	下谷洋子氏	高木厚人氏
相撲浮世絵展－房総の力士そろい踏み		高木聖鶴コレクション図冊
	城西国際大学水田美術館	高木聖雨氏
書海 1157,1158,1160－1170	書海社	ミュージアム発見伝（館報95）
書星 899,902－912	書星会	館山市立博物館
第69回書星会	同上	武士たちの明治
房総に生きた書家 浅見錦龍生誕100年展	同上	近代の書 中野越南遺作展
		墨美 268 中野越南
日本書法 53	書道芸術社	同上
書道日本 826－837	書道日本社	同上
令和元年度 館報	市立市川歴史博物館	田原の文化 44（研究紀要10）
葛飾八幡宮と八幡の藪知らず	同上	R3年度 授業実践報告資料
たいわ－語り伝える白井の歴史－ 36		千葉県高等学校教育研究会書道部会
	白井市郷土史の会	会報 86,87
年報 18	白井市郷土資料館	千葉県書道協会
新千葉タイムス 323,325－336	新千葉タイムス	房総の廃藩置県－千葉県誕生までの移り変わり－
書声 752,753,757－779	鈴木響泉氏	千葉県文書館
50周年所蔵名品図録	駿府博物館	千葉県立美術館RTNEWS 48
美術の窓 451－462	生活の友社	千葉県立美術館
金文－中国古代の文字－	泉屋博古館	年報 46
浅草寺の什宝－浅草寺什宝目録 3 工芸編		同上
	浅草寺什宝研究会	漆黒のモダン 漆芸家 佐治賢使展
全書芸 846,849－851, 853,856,857		山本大貴 -Dignity of Realism-
	全日本書芸文化院	しおさい 192－195
書教 753－763	全日本書道教育協会	千葉県立美術館友の会
第34回全日本篆刻連盟展	全日本篆刻連盟	令和3年度体験のしおり
河野隆遺作集	同上	千葉県立房総のむら
全日本美術 802,804－813		千葉の民俗芸能
	全日本美術新聞社	研究紀要 27
創玄 1288,	創玄書道会	ちば民報 1990
袖ヶ浦市史研究 20	袖ヶ浦市郷土博物館	ちば民報社
上総堀りの技術－竹と木と鉄が生んだ水－		会員名簿 R3, 4年度
	同上	中部日本書道会
けやき（学芸員課程年報25）	大正大学	中日会報 199－203
墨堤の書家 三村秀竹作品集	大東書学院	同上
大東書道 614－625		書・六人展－鬼頭墨峻、石飛博光、船本芳雲、辻元大雲、仲川恭司、柳碧蘚
	大東文化大学書道研究所	辻元大雲氏
大東書道研究 28	同上	ミニマル/コンセプチュアルードロテ&コン
桐墨（書道研究所報12）	同上	ラートフィッシャーと1960－70年代美術
大東書学 21	大東文化大学書道学会	DIC川村記念美術館
令和2年度 文学研究科書道学専攻 研究集録		開館45周年記念 清荒神と鉄斎他3種
	大東文化大学大学院	鉄斎美術館
土橋靖子特任教授退休記念 書への眼差し		年報 2017－2019
		東京農業大学「食と農」の博物館
		美術史学 42
		東北大学大学院文学研究所美術史講座
		葵 118
		徳川美術館
		古武士の風格 富永眉峰の書と俳句
		徳島県立文学書道館
		水脈 17
		同上

ことのは 73-76	同上	第60回記念朝聞書展、泉、心の旅	
歿後30年 小坂奇石と現代書道二十人展			藤波艸心氏
	同上	仏教タイムス 2880	仏教タイムス社
書道特別展 文字の美 柳宗悦がみつめたもの		学会誌 64	文化財保存修復学会
	同上	会報 14-16,16-別冊	豊道春海顕彰会
江口大象 おおらかな書の世界	同上	小坂奇石の書碑と拓本	
Tobunken news 73,75,76 及東京文化財研究所概要	同上	法楽寺リーヴスギャラリー小坂奇石記念館	
国立文化財機構東京文化財研究所		奇石書法帳	同上
独立広報 129,130	独立書人団	小坂奇石の条幅	同上
奈良教育大学で学んだ書家群像		小坂奇石記念館所蔵作品集	同上
奈良市杉岡華邨書道美術館		書源 55-11,12	璞社
創設135周年記念事業成田学園新園舎完成		璞社書展作品集 51,57-59,61	同上
	成田学園	生誕百年記念成瀬映山展	墨澗社
大本山成田山新勝寺中興二十一世貫首 橋本照		墨芳 68-1,2,4-12,69-1~3	墨芳会
稔大和尚追悼遺作集、本葬儀次第等		墨華 598,601-612	華書道研究会
	成田山新勝寺	第43回墨華書道展、一般部選抜展作品集	
橋本照稔大僧正を偲ぶ	同上		同上
名古屋成田山 799-813		現代の書新春展-今いきづく墨の華	
	成田山名古屋別院大聖寺		毎日書道会
法談 67	成田山法談会	三井美術文化史論集 14	三井記念美術館
成田市の文化財-旧下総町の地名-	52	研究紀要 1	港区立郷土歴史館
	成田市教育委員会	江戸の武家屋敷-政治・生活・文化の舞台-	
成田市史研究 44,45	同上		同上
なりたの教育 令和3年度	同上	書道概論	宮澤昇氏
第6回新春書道展		書方教授学	同上
	成田市シティプロモーション部文化国際課	蔡襄・蘇東坡・黄山谷・米元章	同上
日展ニュース 177-180	日展	国民書道十講	同上
第8回日展作品集	同上	学書五十年	同上
日本近代文学館 299,301,303-305		犀水書話	同上
	日本近代文学館	三浦教授退官記念 作品論文集	同上
「日本博」開催に係る効果検証報告書		慈雲尊者の書について	同上
	日本芸術文化振興会	慈雲尊者略年譜・印譜	同上
書の美 227,228,230-240	日本書学研究会	慈雲尊者 微意(複製)	同上
2022 伝統と創意 第75回日本書芸院展作品集		書学 4,5	同上
	日本書芸院	書道雑誌文献目録 1,3	同上
書道美術 78	日本書道美術院	書声 752,753,757-772	同上
令和3年度会員名簿	日本博物館協会	念々道人・上田桑鳩一文献目録(雑誌編)	
野田の桃源郷-漢詩文にみる岩名桃林と座生沼			同上
	野田市郷土博物館	書叢 4,7,9,11	同上
年報・紀要 14	同上	佐々木如空作品集	山田絹絵氏
美術年鑑社55周年史 1966-2021		第56回璞社書展作品集	山本大悦氏
	美術年鑑社	続書を楽しむ	同上
美じょん新報 256-269	ビジョン企画出版社	江口大象-書のあゆみ-	同上
成田山書道美術館寄贈 金子聰松自用印		くらしの中の書/江口大象	同上
	福田鷲峰氏	江口大象「書」の絵本 漢詩こころの旅	同上

実作する古典 6 江戸漢詩 同上
 書作の手助け 独習-半切編,色紙編 同上
 江口大象 半禿の記,老禿の記 同上
 プロに学ぶ 書のテクニック 6 意連 同上
 古希及喜寿記念江口大象 書作展作品集 6-8 同上
 色紙 漢字かな交じり書 菜根譚・性霊集ほか 同上
 由源 54-4~12,55-3 由源社
 尾崎邑鵬-快晴詩魂の作家シリーズ 9 同上
 第30回展記念図録 雙暢書道会作品集 V 吉野大巨氏
 吉村昭 医学小説-伝染病予防に奔走した人々 吉村昭記念文学館
 吉村昭と東日本大震災~未来へ伝えたい、災害の記録と人びとの声~ 同上
 吉村昭没後15年 私の好きな... 同上
 第30回四街道市郷土作家展 四街道市美術協会
 会報 74 読売書法会
 第59回藍笥会書作展 藍笥会
 国府台 25
 和洋女子大学文化資料館・博物館学課程

5. 調査・研究

- ・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
- ・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
- ・学校や地域との連携に関する調査・研究。
- ・書に関する広汎な研究。

6. その他

＜売店について＞

館内受付協の売店（ミュージアムショップ）では、文房四宝・各種書道用具をはじめ書籍や展示図録などを販売。受付に申し出ることにより売店のみの利用も可能。



令和4年度事業予定表

1. 展示事業

展 覧 会 名 及 び 概 要		開 催 期 間
1	<p>○田近憲三蒐集拓本と近代日本の書</p> <p>社会が大きく変動した明治維新は、日本の書にも大きな影響を与えた。各々が信念に基づき、さながら百花繚乱の彩りを呈した時代の書と、彼らが理論的根拠を置いた中国の古典を豊富な内容のコレクションとして知られる田近憲三旧蔵の中国の拓本から選び、ともに展示することで彼らの目指した書の世界に迫る。</p>	4年 4月23日（土） ～6月19日（日）
2	<p>○生誕140年中野越南とその周辺</p> <p>平安時代の仮名を起点に、王羲之を頂点とする中国古典を学び、さらに禅僧にも似た精神性を作品に表現した中野越南が生まれて140年が経つ。本展では越南の作品を一堂に集め、改めてその書業を回顧する。あわせて越南と関わりのあった人々や越南から影響を受けた作家の作品も展示する。</p>	6月25日（土） ～8月14日（日）
3	<p>○千葉県書道協会役員展</p> <p>千葉県書道協会は、書が日展に参加する以前の昭和22年に設立後、約80年間にわたり千葉の書を牽引し続けている。協会の中核を担う役員は、全国的に活躍する作家が集っており、多彩な活動を展開している。本展では書流を超えた千葉ゆかりの作家の書を先人の作品とともに展覧する。</p>	8月27日（土） ～10月16日（日）
4	<p>○開館30周年記念 文化文政江戸の文人</p> <p>書も画も写すことを起点に制作が展開する。写すことは学び、伝承、伝達であり、新たな創造にもなり得る。江戸の文人たちは古今東西の身の回りのものを写している。そのいとなみは文学研究や博物学的な意味に留まらず、新たな書画や詩歌に結びついた。江戸文人の書画を「写し」という観点から眺める展覧会。</p>	10月22日（土） ～12月18日（日）
5	<p>○新春特別展 成田山の寺宝－祈りの美</p> <p>開基以来1080余年にわたり、成田山新勝寺は多くの美術品を語り伝えてきた。とりわけ成田詣でや出開帳で隆盛を迎えた江戸時代には、多様な美術品が奉納されている。本展では江戸期の仏教美術を中心に、新勝寺が所蔵する美術品を紹介する。</p>	5年 1月1日（日） ～2月12日（日）
6	<p>○尾崎邑鵬展</p> <p>廣津雲仙、辻本史邑に師事した尾崎邑鵬は、日展、読売書法展、日本書芸院展、現代書道二十人展などで活躍し、今日の書壇を担う作家の一人として意欲的な活動を展開する。本展は生誕100年を記念し、尾崎邑鵬の代表作を一堂に展覧する。1階展示場は2月から収蔵優品展、4月からは成田山全国競書展を開催する。</p>	2月18日（土） ～4月16日（日）

※展覧会名、開催期間については、変更となる場合があります。

2. 普及事業

- ・展示に関連する講演会や解説会の開催。
教育や福祉機関などとの連携。
- ・書道や芸術の啓蒙活動のため、研修室や会議室などの施設貸出。
- ・展示に係わる、ポスター・案内はがき・展示目録の発行および発送。

3. 調査・研究

- ・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
- ・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
- ・学校や地域との連携に関する調査・研究。
- ・書に関する広汎な研究。

寄附金のお願い

成田山書道美術館は、平成4年11月に開館し主に近・現代の書作品を中心に収集し、それらを基に展示普及事業を行い、平成25年3月には、これまでの書道文化振興に資する役割が評価され、成田山文化財団を構成する成田山仏教図書館・成田山霊光館とともに、公益財団法人に認定されました。

今後も老朽化した施設整備を図りつつ、皆様のご期待に添えるよう、魅力ある美術館として活動してまいりますので、温かいご支援をお願いいたします。

【寄附を必要としている事業】

建物・施設整備事業

調査・研究事業

その他、成田山書道美術館の事業運営に係る事業

【寄附単位】

法人 1口 50,000円

個人 1口 10,000円

【特典】

- 1口につき招待券（個人10枚、法人50枚）を進呈いたします。
- 成田山文化財団年報にご芳名を掲載し、進呈いたします。※掲載の許可をいただいた方のみ
- ご寄附が10口以上の法人及び個人には感謝状を贈呈いたします。

【申込方法】

所定の「寄附金申込書」（ホームページよりダウンロード）にご記入の上、下記宛てにお申込みください。

【申込受付】

〒286-0023 千葉県成田市成田640

公益財団法人 成田山書道美術館

総務課 寄附金担当

TEL.0476-24-0774 FAX0476-23-2218

【払込方法】

払込取扱金融機関にて下記の銀行口座への払込をお願いいたします。なお、振込手数料のご負担をお願いいたします。

京葉銀行 成田支店 普通 No.5883361

ナリタサンショドウビジュツカン カンチョウ
ウ タナカ ショウコウ

成田山書道美術館 館長 田中照広

現金でのご寄付は、直接ご持参ください。

【税制の優遇】

当館は、税法上の優遇措置対象となる「公益財団法人」となっており、所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。確定申告時に当館が発行する寄附金受領証明書を税務署に提出してください。詳細については、お近くの税務署にお問い合わせください。

【個人情報の取扱い】

成田山書道美術館が取得した皆様の個人情報は、行政庁への申請書、ご寄附のお願い、当館のお知らせなどの送付以外に利用したり、本人の同意がなく第三者に提供することはありません。

また、取得した個人情報は漏洩・損失・紛失・改ざん・不正利用などを防止するため、法令、指針に従って必要な措置を講じ、個人情報を適切に管理いたします。

【注意事項】

お申込み予定日より10日以内にご入金のない場合、お申し込みはキャンセルとさせていただきます。

理由の如何に問わず寄附後の払い戻しはいたしません。

令和3年度寄附者

- 晨風会
- 松井洋子氏
- 田中節山氏
- 井上清雅氏

上記の方々より貴重なご寄附を頂きました。紙面に掲示して、厚く御礼申し上げます。

案内図・利用案内



成田山仏教図書館

開館時間：9時～17時

休館日：毎週、日・月・木曜日・国民の祝日（但し、日・木曜日については、電話によるレファレンス・閲覧予約等によるご来館は可能。）

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩15分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩5分

位置：成田山大本堂左手、聖徳太子堂下

○住所・連絡

〒286-0024 千葉県成田市田町312番地
電話 0476-22-0407 Fax 0476-24-4465

成田山霊光館

開館時間：8時30分～16時30分

休館日：月曜日・国民の祝日

展示は、成田山平和大塔1階霊光殿にて開催（6時～16時・無料）。

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩20分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩15分

位置：成田山平和大塔の後方

○住所・連絡

〒286-0021 千葉県成田市土屋238番地
電話 0476-22-0234 Fax 0476-22-0242

成田山書道美術館

開館時間：9時～16時（入館は15時30分まで）

休館日：月曜日

（祝日の場合は開館し、よく平日が休館）

入館料：大人 500円（300円）

高・大学生 300円（200円）

中学生以下無料

（※カッコ内料金は団体20名以上）

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩25分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩10分

位置：成田山公園内、三ノ池の畔

○位置・連絡

〒286-0023 千葉県成田市成田640番地
電話 0476-24-0774 Fax 0476-23-2218

令和3年度 成田山文化財団年報 第13号

発行日 令和4年(2022)4月28日
編集発行 公益財団法人 成田山文化財団
連絡先 成田山書道美術館
〒286-0023 成田市成田640
Tel 0476 (24) 0774
